

KPU NEWS



薬学の未来をつくる
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 180 Jan. 2015

新年のご挨拶

“2015年の取り組み、 ナンバーワンを目指して”

理事長 武田 禮二



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には新たな気持ちで2015年を迎えられた事と存じます。

わが国では、昨年4月の消費増税の影響で回復傾向にあった景気も少し減速しましたが何とか持ちこたえたようです。また、東京で思いがけない熱帯のデング熱ウイルスによる感染被害が報道されました。一方、西アフリカではエボラ出血熱感染被害が広がり、ヨーロッパや米国でも感染患者が出て、大きな問題となっています。今後も人口増による未開地の開発が更に進めば、未知のウイルス等が人間社会に脅威を与える可能性も予測されます。世界各国がパンデミックに対応するための危機管理体制やそれらの治療に向けた新薬の開発に取り組んでいます。

開発と言えば、医薬品の臨床開発に於ける不祥事

が大きな社会問題となり、企業倫理が問われています。その上、STAP細胞の論文不正で始まった研究に対する不正も大きな波紋を呼び、研究倫理のあり方が改めて大きな問題となっています。ファーマシスト・サイエンティストを育成する大学での倫理教育は今後益々重要になってきます。今年度は大学を挙げて倫理問題に取り組み、真に社会で役立つ倫理教育を進めて参ります。

本学は昨年4月15日に創立130周年を迎えました。新たな一步を踏み出すために、130年間継承された建学の精神“愛学躬行”を忘れることなく、ファーマシスト・サイエンティストの育成と共にナンバーワ

CONTENTS

■ 特集

卒業生・在学生交流会を開催しました！ 4~6

■ ご挨拶

新年のご挨拶 理事長 武田 禮二 1~2

年頭のご挨拶 学長 乾 賢一 2~3

新任のご挨拶 3

■ コラム

卒業生からのメッセージ 7

KPUこぼれ話 7

私の研究室紹介 8~9

学生相談室だより 23

私の薦める、私の一冊 24

■ 報告

2015年度推薦入学試験結果 16

第2回学生生活調査 調査結果概要について 21

大学院トピックス 26

受賞 30~31

京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 32

■ イベント

異文化体験 10~12

外国人留学生交流会を開催しました 13

「研究倫理ガイダンス」を実施しました 13

ICEPS 2014(Taipei, Taiwan)での学会発表 14~15

2014年11月のオープンキャンパス開催 16

「日本医学会総会学生フォーラム」夏合宿 18~19

2014年度京薬祭を終えて 20

大学院英語教育の新しい試みについて 27

第20回京都薬科大学公開講座報告 27

■ お知らせ

第100回薬剤師国家試験 3

学生総合保障制度ご加入の皆さまへ 15

Library News 16

2014年度後期試験等日程 17

京薬会だより 19

教育後援会からのお知らせ 22

2015年度卒業後教育講座概要 25

クラブだより 28~29

お知らせ 31

ンの薬科大学を目指して、教育・研究体制を強化して行きます。更に、文部科学省主導の下で推進される“大学のガバナンス改革”にも積極的に取り組みます。

第2期中期計画も4年目を迎え、“薬学領域で力強く活躍できる幅広い人材育成を行うための教育力の構築”をめざして各課題を推進しています。主な課題として、1. 自立した学生の育成 2. 幅広い人材育成のための教育活動 3. 研究を通じた教育活動 4. 教育・研究活動を支える組織・制度 5. 財務計画 6. 施設・設備の整備等です。具体的には①学生の支援体制として自立を促す体制の整備、②奨学金制度を見直し、その対象者の増員、③長期休暇中における語学研修制度の導入、④メンタルサポート体制の充実、⑤初年次教育及び教養教育の強化、⑥専門教育の充実、⑦国家試験対

策の強化、⑧大学の国際化、⑨進路支援体制の強化等の課題の実施に向けて取り組んでいます。

また、施設整備面では創立130周年記念事業の一環として体育館兼中央講堂（仮称）の建設を来年1月竣工（予定）に向けて進めています。旧体育館は、災害時の山科地区の避難施設に指定されていました。しかし、その耐震強度に大きな問題があったため、止む無く建て替えを決めました。この工事が終わればほぼ大学の施設整備は完了する事になります。学生諸君には入学時から、工事のために種々ご迷惑をお掛けしましたがもう少しご辛抱いただきたいと思えます。

最後になりましたが皆様方にとって本年がよい年であります事を祈念し、新年のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶

～新しい時代に向けて、 誇りと責任を～

学長 乾 賢一

新年あけましておめでとうございます。将来の見通しが困難な時代の中で、新たな夢や希望を抱いて新しい年をお迎えになったことと存じます。

昨年4月、本学は創立130周年記念行事を盛大に執り行うことができました。輝かしい歴史と伝統を築いてこられた先人達に感謝と敬意を表するとともに、今担当する者として責任の重さを痛感し、将来の発展に向けて決意を新たにしました。本学における薬学教育改革は、6年制教育が一巡したところでカリキュラム改訂を行い、初年次導入教育の改善・充実、教養教育と語学教育の充実、英語による6年次生の卒論発表会（ポスター発表）など、構成員が一丸となって果敢に取り組んできました。また、薬剤師国家試験対策につきましては、薬学教育研究センターの教員と各分野等の教員が連携して的確に対応し、これまでのところ概ね良好な成果をあげています。一方、6年制の第1期生に対するアンケートを昨年実施しましたところ、本学の教育に対する満足度は非常に高いことがわかりました。本学は、2014年度薬学教育評価機構の評価を受審中ですが、教員、事務職員の様々な努力が評価結果に反映されることを期待しているところです。

6年制薬学教育に伴うネガティブな側面は、研究力

の低下であります。大学院修士課程の学生が激減したために、研究の推進に支障をきたしていることは否めず、このことは薬系大学の大きな悩みであります。しかし、学術研究の推進については、従来の既成概念にとらわれるのではなく、発想の転換が必要でありましょう。本学では、課題発見、課題解決型の教育に注力し、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた教育を実践し、高度な専門的能力と研究能力を有する薬剤師すなわちPharmacist-Scientistの育成を目指しており、この方向性は薬学研究の画期的な発展に繋がる可能性も秘めています。また、学部教育と並び重視しているのが大学院教育です。6年制薬学部の上に立つ4年制博士課程は、大学、医療現場、製薬企業における将来の指導者養成、すなわち薬剤師免許を持った薬学博士を育成するために極めて重要であります。大学院博士課程学生には、分野（研究室）の垣根を越えた研究指導を奨励し、リサーチ・アシスタント制度による経済的支援、短期海外留学支援（約6ヶ月）など特徴ある支援を行っています。また、若手教員（准教授以下）に対しては、科学振興基金による研究助成、海外留学の奨励（代替教員の採用可）、海外の学会発表・参加の支援（毎年可）などを行っています。現在、若手教員の活躍が目覚ましく、5名が海外留学中であり、また海外の学会などでの発表件数も着実に増加しています。このように、

本学は単科大学の特徴、強みをフルに活かしながら、6年制薬学のモデル校を目指して力強く前進しています。

ところで、薬学教育モデル・コアカリキュラムが改訂され、いよいよ2015年度の新入生から適用されます。薬剤師として求められる基本的な資質として、6年卒業時に必要とされる10の資質が示されています。また、同時に薬学実務実習カリキュラムも改訂され、現在ガイドラインの作成が進められています。今回の改訂では、大学が中心となって病院と薬局での実務実習の一体化を図ることが求められています。これらの改訂に対して、大学では新たな苦難を伴うこととなりますが、これまでの本学の種々の経験や実績を考えますと新たな発展のチャンスと捉えることができます。団塊の世代が後期高齢者とな

る2025年が、医療・介護、社会保障などの面から大きな社会問題となっています。その時点で薬学・薬剤師の果たす役割がどのようになるか見通せないところもありますが、今以上に活躍が期待されることは間違いないように思います。この期待に応えうる人材を、早急に育成しなければなりません。

本学は、今、輝かしい歴史と伝統を基盤として、教員、事務職員、学生などすべての構成員が一枚岩となって特徴ある教育・研究活動を展開し着実に成果をあげています。これは、本学並びに構成員一人ひとりの大きな誇りであり、また社会に対する責任でもあります。今年もKPUの旗を振り続けますので、皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

最後に皆様のご健康、ご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶



基礎科学系
数学分野

うわの よしお
教授 上野 嘉夫

平成26年10月1日付で基礎科学系数学分野教授に着任いたしました上野嘉夫と申します。私は学生・院生・教員（助手、講師、助教授）として京都大学に26年間在籍し、工学部と情報学研究科で数学教育に携わりました。その後、公立はこだて未来大学教授として部局長職を通算4期務めながら、初年次数学と複雑系コースの専門教育に9年半携わりました。この間、力学系理論と呼ばれる数学分野での研究を続

け、現在は量子情報空間上のフローが興味の中心です。学問的刺激に満ちた京都に戻ったのを機に、研究を一層進めたいと思っています。

教育については、学生諸君へのメッセージとして述べます。本学の建学精神「愛学躬行」や、J. S. ミルのSt. Andrews大学講演に照らすとき、本学の数学教育は、諸君が知性溢れる専門職になるための知的訓練とそれがもたらす思考習慣を提供する場のひとつだと思います。限られた時間内で、統計解析や薬学領域の数学モデルから、数理的発想の「お作法」を汲み取れば成功でしょう。是非、このような意識を持って学んでください。

私には、新たな教育・研究のスタートです。ご指導とご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

News 第100回薬剤師国家試験

学生課

第100回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日 2015（平成27）年2月28日（土）・3月1日（日）

試験地 北海道 宮城県 東京都 石川県 愛知県 大阪府 広島県 徳島県 福岡県

試験科目 [必須問題試験]

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務

[一般問題試験]

・薬学理論問題試験

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理

・薬学実践問題試験

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務

合格発表 2015（平成27）年3月27日（金）

卒業生・在学生交流会を開催しました！

このところ、本学ではさまざまな試みに挑戦しています。今回ご紹介する昨夏の「卒業生・在学生交流会」も、そのような新たな試みの一つとして「特集」記事とさせていただきます。

ご承知のように、昨年は本学の創立130周年という記念すべき年でもありました。社会で幅広く活躍する多くの卒業生のみなさんの存在は、本学にとって貴重な人的財産でもあります。もっと早くにこうした企画があってもよかったですのではと思うほどです。

初めての交流会でもあり、参加人数は小規模にとどまりましたが、内容の濃いものとなったようです。来年以降ますます盛会になっていってほしいものです。京葉会による11月の「ホームカミングデー」と相まって、卒業生と在学生のみなさんの間に、さらなる交流、知識や情報の交換が深まる有意義な場となりますように！

KPU_{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

「卒業生・在学生交流会」を8月9日（土）に初の試みとして開催しました。「卒業生・在学生交流会」の開催は、卒業生には帰学意識の高揚を、在学生にはキャリア支援の充実を目的としています。初の試みである今回は、2011年3月の卒業生（6年制1期生）と在学生（5年次生）にお集まりいただきました。台風11号が迫る悪天候下での開催でしたが、卒業生20名、5年次生48名、教育職員29名に出席いただくことができました。第一部として卒業生と在学生による座談会（躬行館1階セミナー室）、第二部として教育職員を交えた茶話会（躬行館食堂）を開催

し、たくさんの笑顔の中、初の試みを盛会に終えることができました。

まず、第一部の座談会では、職種別に分かれた卒業生（2～4名程度）が、小人数（7名程度）の在学生グループ（7グループ）を15分おきに巡回する方式としました。在学生グループごとに、卒業生から現職等の選択理由や業務等の内容をざっくばらんにお話いただくことができましたので、積極的に質問する在学生の姿が認められるなど、活気あふれる座談会となりました。

■ 座談会（第一部）の風景



乾学長による開会の挨拶



会場はこのような感じです



ざっくばらんでなごやかな雰囲気



様々な職種の方と話ことができました



次に、第二部の茶話会は、ノンアルコールの立食形式にて行いました。多くの教育職員の皆様にもご出席いただくことができ、卒業生の社会における頑張りや在学時の思い出などから再会と交流の輪が広

がりました。会の進行とともに在學生にも話題や交流の輪が広がり、在學生が卒業生や先生方と積極的に会話や質問をする姿が印象的でした。

■ 茶話会（第二部）の風景



乾学長による挨拶と乾杯



食堂の味を懐かしんでもらいました



会場は終始盛り上がっていました



積極的に質問する5年次生が印象的でした

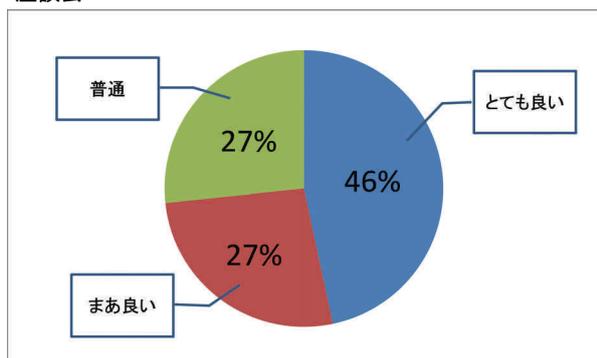
今回の交流会に対する満足度についてアンケート調査した結果、卒業生・在學生ともに「とても良い」あるいは「まあ良い」を選択された方が約8割にのぼり、とても満足度が高い交流会であったことが

示唆されました。今後、このアンケートで寄せられた要望を交流会の運営に反映させ、卒業生の帰学意識のさらなる高揚と在學生へのキャリア支援のさらなる充実につなげたいと考えています。

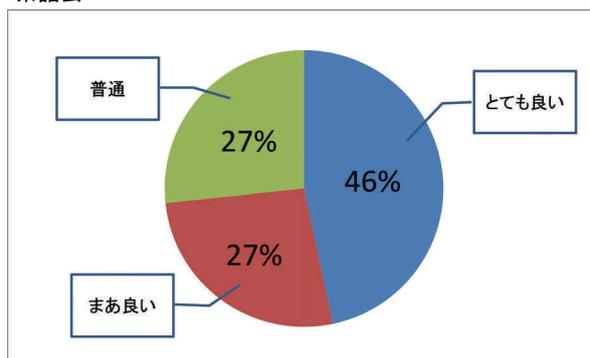
■ 交流会の満足度アンケート

- ・ 卒業生（有効回答数15名）

座談会

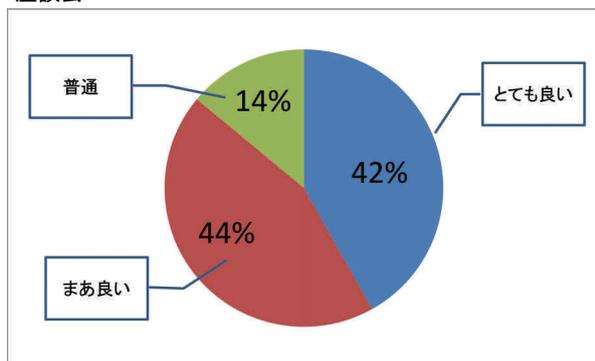


茶話会

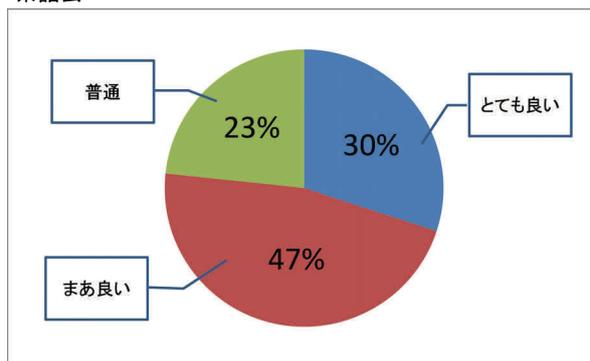


・在学生（有効回答数43名）

座談会



茶話会



<卒業生のご意見>

- ・学生がどんなことを知りたいか知ることのできる良い機会となりました。初心にかえることができてよかったです。
- ・学生と直接話せてよかった。自分の経験談などを真剣に聞いてくれたので少しでも参考になればと思う。
- ・久しぶりに同学年・後輩としゃべれて楽しかった。声をかけていただき、ありがとうございました。
- ・現役の大学生の意識の高い質問をうけて、良い刺激になりました。
- ・また機会があればお力になりたく思います。

<在学生のご意見>

- ・実際に働いている方の現場の声がきけてよかったです。セミナーみたいな感じではなく対話方式だったのでとても良かった。自分の聞きたいことが質問できた。
- ・色々な職種の話が聞けて、少し自分の視野が広がったと思うのでよかったです。
- ・実際に働いている人と話すことができてよかった。企業や公務員の方のお話が聞けたのは良かった。
- ・卒業生の方と直接お話しする機会がありとても良かったです。自分が進もうとしている進路に進んでおられる方のお話はとても貴重でした。
- ・研究職や開発職は何をやっているかイメージがわきにくかったので、今回少し理解できました。
- ・今まで知らなかったことや、これからの進路について考えるきっかけになったので良かったです。
- ・色々な職種の方の話を聞くことができ、今後の職業選択において、良い経験となった。
- ・あまり興味がなかった職種がおもしろそうに感じれた。
- ・自分の考えかたが変わったり、気づかなかった点を気づけることが多かったので、先輩方の話を聞くことができてよかったです。
- ・将来について真剣に考えようと思った。

他方、交流会の実施に先立ち、卒業生（6年制1期生）には本学のホームページ等を活用した「卒業生アンケート」に協力していただきました。このアンケートでは、本学の教育・研究あるいは種々の支援について振り返っていただくことといたしました。多くの教育職員の皆様にお力添えをいただきました結果、卒業生319名中149名（回答率：46.7%）から回答を得ることができました。回答には、非常に好意的な意見が多数存在し、特に、「本学に入学して良かったと思いませんか」に対して、「非常にそう思う」あるいは「そう思う」と回答した卒業生が9割以上を占めたことが印

象的でした。また、本学をより良くするための意見や提案を多数いただきましたので、今後の本学の取り組みに反映させたいと思います。

なお、次年度も「卒業生・在学生会」を同時期に実施する予定です。次年度の参加対象となる現4年次生ならびに卒業生（2012年3月卒）には、積極的な参加を期待しています。

最後になりますが、交流会ならびに各種アンケートの実施にご協力を賜りました卒業生、在学生会、ならびに教育職員の皆様に心からお礼申し上げます。

（進路支援部長 西口 工司）



研究員という選択

岩井 ゆり

2009年 学部卒業
(薬化学分野)

株式会社ナード研究所
マテリアルサイエンス
研究部2グループ 研究員



2005年4月、私は薬学部4年制最後の年の学生として入学しました。それから10年近くが過ぎ、当時、一番新しかった愛学館の周りには、さらに新しい建物が立ち並んでいるようです。そして10年後の私は現在、薬剤師ではなく、株式会社ナード研究所の研究員として、主に有機合成の仕事を担当しています。大学入学当初は、全く今の自分の状況（化学系の研究員になること）は想像できなかったですし、そもそも将来のことを深く考えていなかったのだと、この文章を書きながら思い返しているところです。

私が今の進路に進むきっかけとなったのが分野配属でした。「何となく」の興味で、有機化学系の分野を見て回り、訪問した薬化学分野。そこで上西先生と雑談したことが、（大げさですが）人生の転機だったのかなと思います。私は薬化学分野に配属された1年、そしてその後の修士、博士課程の5年間を東京大学大学院薬学系研究科に場所を変えて研究に励

み、今年度から企業の研究員として働き始めました。

薬学部4年制の私たちの学年でも、私のように博士課程まで進学した学生は少なかったのではないのでしょうか。薬剤師になるための教育環境が充実した大学で学生生活を送ったにも関わらず、薬剤師でもなく、製薬企業でもない場所で働くという選択肢は、それほど多くの人を選ぶものではないと思います。ですが、実はこういうのも「あり」なのかなと思います。薬学部はかなり広い範囲の「サイエンス」について学ぶ学部ですが、それらの中から一つ選んで、そこを突き詰めただけなのです。

私が現在所属しているのは、株式会社ナード研究所のマテリアルサイエンス研究部というところです。薬剤師や製薬関連の企業を目指そうという学生さんたちには馴染みのない会社ですが、テレビや新聞、広告などでよく目にするような企業の研究開発部門のパートナーとして、受託合成、受託研究を行う会社です。ここで私は、様々な企業から受けた多様な合成依頼に挑戦し続けています。今、私は毎日充実した生活を送っていますが、この充実感が感じられるのも、自分のやりたいことを見つけることができたからだと思います。薬学部6年制となった今、大学院への進学率も低くなっていると思いますが、私のように、研究を楽しく思ってくれる後輩達が今後も現れてくれると嬉しいなと思います。（もちろん、国家試験には合格必須ですけれど）

KPU こぼれ話



「オキシトシン」と「バソプレシン」

薬理学分野 教授 大矢 進

「オキシトシン」と「バソプレシン」というホルモンについて、生理学や薬理学の講義では次のように習います。「オキシトシン」は子宮や乳腺を収縮させるため、陣痛や乳汁分泌を促進する。「バソプレシン」は血管を収縮させ利尿を妨げるため、血圧を上昇させる。

一方、「オキシトシン」と「バソプレシン」が情動行動や社会行動に重要な働きをすることも知られてきました。動物実験により「オキシトシン」が個体同士の信頼や社会的愛着行動を増大させることが報告され、人間においてもオキシトシン投与により人間同士の信頼関係、愛情、友情が高まり、経済

的、政治的、社会的な利益が向上するのではないかと考えられています。また、乱婚制（＝浮気性？）のマウスの原因遺伝子がバソプレシン受容体であることが判明しました（2004年のNature誌に掲載）。「バソプレシン」の分泌量が少ない男性では浮気率・離婚率が高いという実験データもあるようです。但し、浮気がバレた時に「その日はバソプレシンが少なくして…」と言っても許されないと思います。

社会性、愛情、友情における2つのホルモンの役割については未解明な点が多く、紐解くべき学術的に重要な課題が山積しています。例えば、「オキシトシン」と「社会行動」に関する最新研究成果が2014年10月号のCell誌に掲載されました。浮気性に関する研究でも学問的に突き詰めれば、Nature誌やCell誌に掲載されるかもしれません。

医療薬科学系 臨床薬学分野

5年次生 一同

いくやくけんきゅう

みなさん、「育薬研究」という言葉を耳にしたことはありますか？「育薬研究」とは、臨床現場で生じた問題を取り上げ、研究結果を蓄積して還元することです。私たちは、育薬研究を介して、臨床現場で生じる薬の効果や有害事象の個人差の原因を解明し、より良い薬物治療の提供を目的としています。例えば、癌患者さんの薬に対する耐性化や腎臓が悪い患者さんで頻発する薬の有害事象などについて、細胞レベルで機構解明を目指しています。

この分野の特徴は、チームで一つの目標に向かって研究を進め、お互いの意見をぶつけあう機会が多いことです。単にチームに留まらず、研究室全体でも議論が繰り返されます。その結果、新たな考えに気づき、視野を広げ、協力することの大切さを学ぶことに繋

がっています。このように学生自ら実験計画を練り、熱心に研究に取り組むのが、この分野の特徴です。また、研究成果を積極的に学会で発表し、英語学術論文を紹介するなど、様々な発表機会があるため、ディスカッションやプレゼンテーションの能力が自然と身に付きます。

一方で、分野旅行などのイベントでは、学年を越えて大いに楽しみ、メリハリのある充実した生活を送っています。ぜひ一緒に研究に取り組み、充実した時を共有しましょう！



分析薬科学系 代謝分析学分野

ちひろ

4年次生 渡辺 千裕

代謝分析学分野では、安井裕之教授の御指導のもと、内藤行喜助手、大学院生1名、6年次生19名、5年次生21名、4年次生15名、3年次生13名が所属し、研究室活動に励んでいます。

本分野では、生物無機化学や生命錯体化学を根底に据えた疾病の予防や診断、治療に貢献するための研究を行っており、具体的な研究テーマとしては、[1]金属錯体や天然物を用いた生活習慣病の予防と改善、[2]活性酸素種による酸化的障害や老化の予防と改善、[3]抗菌薬、抗がん剤、コラーゲンペプチドの体内動態解析、[4]誘導結合プラズマ質量分析計(ICP-MS)を用いたバイオメタルの分析、[5]メタロミクスに関連した疾患バイオマーカーの探索などがあります。以上の中から

学生が各自1つの研究テーマを選択し、先生方からアドバイスを頂き、学術論文を読むことで知識やアイデアを得ながら主体性を持って研究や演習に取り組んでいます。手技を磨いて実験で結果を出すだけではなく、各自のテーマに関する英語の学術論文を紹介する文献発表や、それまでに行った実験内容や研究成果を報告する研究発表会などのセミナーが週に一度開催され、英語を読み解く力やプレゼンテーション能力を鍛えることが出来る良い機会となっています。このような活動を通して、卒業するまでに学会で発表することを目標に日々研鑽を積んでいます。また、新入生歓迎会や忘年会を始めとした学年の垣根を越えて研究室全体の絆を深められるイベントも学生が主体となって多々行われています。

分析の世界や生物無機化学に興味がある方、ぜひ愛学館5階の代謝分析学分野に見学いらして下さい。

生命薬科学系 細胞生物学分野

あつみ

5年次生 久保田 亜摘

私たちの研究室を一言でいうと『自由』です。各学生が異なる研究テーマを持ち、それぞれのペースで研究を行います。論文解析や先生とのディスカッションで決めた研究計画や目標の達成のために、自分で研究のスケジュールや進め方をマネジメントしていきます。しかし、研究の『自由』というのは難しい側面も持っています。毎週金曜日のセミナーでは、自分自身で行った研究結果や英語論文を報告します。数か月に一度、発表が回ってくるので研究や論文読みをさぼった場合は悲惨な結果が待っているのです。

私たちの研究室では、細胞内のシグナル伝達と翻訳後修飾、ウイルスの発がん機構、臨床検体を用いた血

中ウイルスの挙動変化や薬剤耐性変異の解析、初期発生の機構等について研究しています。また、ワインの発酵残渣から抗ウイルス化合物や抗腫瘍化合物の探索なども行っています。研究室の研究・文献セミナーでは、活発な意見交換がなされます。また、積極的に学会にも参加し発表を行っています。

最後に研究室の様子を紹介します。新歓や忘年会、ソフトボール大会への参加、BBQなどイベントもたくさんあり、和気あいあいとした雰囲気です。また先生方との距離も近く、研究以外のことでも相談に乗って下さいます。

研究にバイトに遊びに、いろんなことを全部やりたい！という方は、南校地S棟2階細胞生物学分野に来て下さいね。

創薬科学系 薬品製造学分野

4年次生 松本 卓也

この研究室は有機合成化学を基盤とした研究室です。化合物をいかに合成するかを主な目的として、反応の開発、天然物や薬の候補となりうるような化合物の合成などを行っています。僕は将来薬の開発研究に就きたいと思っており、この研究室のやっていることはまさに僕のやりたいことと一致していたのでこの研究室を選びました。

僕は大学生活をできるだけ有意義に、メリハリのある研究生活を送りたいと思っていたのですが、僕の尊敬する先輩がすごくメリハリをもって研究をされていたのでここなら間違いないと思って入りました。この研究室は自分のペースで進めることができ、やりたい

日はいっぱい研究し、用事のある日はちょっと早めに切り上げるように計画・実行できます。だからすごくメリハリがつけやすいんです。個人実験なのでもちろん自分で責任をもって研究をすすめる必要があります。先生方もフレンドリーに接することができ、先輩方、同級生の間でもすごく仲がいいです。

研究室選びで大切にしてほしいのは自分が何をしたいかだと思います。せっかくの大学生活であり、その多くを占める研究室なので自分が一番やりたいことに没頭できるような研究室を選んでほしいと思います。



医療薬科学系 薬剤学分野

6年次生 堀川 隆文

薬剤学の分野は、原料粉末を錠剤やカプセル剤などの製剤にする分野（物理薬剤学）と作った製剤を動物や人に投与した後の生体内動態を研究する分野（生物薬剤学）の2つに分かれるが、当研究室では後者の生物薬剤学について主に研究している。

最近、生物薬剤学の分野において薬物の投与方法や投与手段を工夫して、薬物を作用部位に効率よく移行させる最適の投与形態を見出し、薬物の持つ有効性や安全性を最大限に発揮するドラッグ・デリバリー・システム(DDS)を開発することが注目されており、当研究室でも主にDDSについて研究している。中でも当研究室では、今後益々重要になることが予想される生活習慣病（糖尿病、骨粗鬆症など）の治療薬、アルツハイマー型認知症治療薬ならびに癌治療薬（抗癌剤）のDDSの開発などを中心に研究を進めている。

研究室では薬物を動物に投与し、薬物の体内動態や薬理効果を検討するため、動物実験を行う。従って、研究室分属後は動物（主にラット、マウス）を使う実験が多いが、細胞を用いる実験系もある。分属した学生は、教員や上級生の指導の下、それぞれのテーマについてグループごとに分かれ研究に熱心に取り組んでいる。また、研究室ではメリハリをつけて研究することをモットーにしており、実験以外のリクリエーションも盛んで、分属した学生は同級生の学生とはもちろん先輩後輩との交流を深めている。

さらに、薬剤学は“薬学にしかない学問分野”ということが大きな特長であり、製薬企業等への研究などの就職においてもライバルが少ない（他の学部には薬剤学研究室がなく、製剤・DDS部門への応募が少ない）ので就職には有利であり、既に当研究室の多くの卒業生が、各企業（製薬企業を中心に食品・化粧品関連企業も含む）、病院、薬局などの多方面で活躍している。

生命薬科学系 公衆衛生学分野

5年次生 蟹江 静／北野 祐香／関 奈緒子
西川 太介／横川 玲奈

私達の研究室では、大気や土壌、食品などから変異原性物質および抗変異原性物質を検索・分析したり、生物活性を調べたりすることによって、がん予防に貢献することを目的として研究活動を行っています。

この研究室には、高速液体クロマトグラフ(HPLC)などの機械がたくさんあるため、分析機器を使いたい人にはおすすです！また最近、高速液体クロマトグラフ/質量分析計(LC/MS/MS)も新たに入りました。「分析の機械の使い方なんてわからない！」という方でもしっかり教えますので安心して下さい。

チームで研究を行うため、先輩・後輩ととても仲が良いです。また、懇親会などもあるためチーム内だけでなく、他のチームのメンバーとの交流もあり、研究

室全体がなごやかな雰囲気です。先生や先輩方は、優しく、ときに厳しく指導してください。この研究室では、挨拶を基本とした先生や先輩方とのコミュニケーションを学べる場でもあります。ですので、3年次後期から始まる研究室生活の中で、社会に出た時に恥ずかしくないような礼儀作法身に付けることができます。

研究内容や先輩に興味のある人はぜひ一度見学に来てください。お待ちしております！



ドイツ・フライブルク大学主催の「日本人学生のためのドイツ語サマープログラム」に参加して



本年度もフライブルク大学国際局と語学教育センターが主催する「日本人のためのサマープログラム—ドイツ語とドイツ文化」が2014年8月6日から29日までのおよそ1ヶ月の期間に開講された。フライブルク大学は1457年創立の、ドイツでは8番目に古い大学で、創立以来の歴史を持つ医学、法学、哲学、神学部の他に、化学・薬学部など11の学部を擁する連邦きっての総合大学である。

本学からの参加は、5名が初めて受講した2000年以来14回目を数え、今年度は27名の2年次、3年次、4年次生が参加した。徐々に30名に迫る勢いの大参加者数であった。

昨年度から本プログラムの運営方法が変わり、その移行期ということもあり不手際が重なり参加者に大変な面倒やら迷惑をおかけしたが、今年度はスタッフも充実し、スムーズな運営が戻ってきた。運営母体は変わったが大学構内には日本人・ドイツ人スタッフが常駐する参加者専用のサポートルームが用意されるなど、問題が発生した場合は昼夜を問わずスタッフが対応する即応体制は充実し、海外渡航未経験者でも安心して参加できる様々な心遣いは従来通りだ。

長年多くの参加者を送り出している本学のために、毎年特別プログラムが用意していただいているが、これも継続されている。今年度はフライブルク大学医学

部付属病院の院内薬局での見学会を開催していただいた。1年次に我が国の高度な医療現場を見学する機会があったが、参加者はドイツの最先端の医療現場を見学して、あらためて多くのことを学んだことだろう。

今回のサマープログラムに参加した2年次生の代表に「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出を投稿してもらった。この体験談を読んだり、体験者から直接話を聞いてサマープログラムに興味を持った人は是非とも次の夏休みにチャレンジしてほしい。一定の条件を満たした参加者には海外語学研修の単位が認定されることになっている。教室での授業は午前中で終了、午後には連日楽しいレクリエーションプログラムが用意されている。また週末には州内の都市、フランスやスイスへの日帰りバス旅行が予定されている。それにオプションとしてディズニーランドのお城のモデルとなったノイシュヴァンシュタイン城への遠足も予定されている。受講料は580ユーロ、宿泊は学生寮で寮費が300ユーロ（2014年実績）と驚くほど格安である。

この14年の間に300名近い先輩たちが強烈な文化の違いに格闘したフライブルクの町で、是非青春の1ページに残る熱い異文化体験をしてほしい。

ドイツ語担当准教授／日本フライブルク・アルムニ会会員
ひろし

桑形 広司

注：ドイツでは18歳以上の飲酒は合法です

■ サマーコースを受講して

2年次生 荒木 祐哉

この夏の8月にドイツのフライブルクで過ごしました。3年次生でも行くことは可能ですが、研究室との兼ね合いでいけない可能性もあるので迷っている人はぜひ2年次生の時に行くことをお勧めします。

初めての下宿生活が海外だったので、初めは戸惑うことも多かったのですが数日もすれば慣れ、楽しく過ごせました。ドイツ語は聞き取るのがかなり難しいためドイツ人と会話するのはたどたどしい英語でしたが、ゆっくり英語を話してくれたり身振り手振りで説明してくれたり、人の温かみを感じることができました。



フライブルク大学



お別れパーティーでのクラス写真

フライブルク大学の授業は日本の大学と同じ90分授業が午前に2コマで、午後は自由な時間を過ごせます。授業では日常生活で使えるフレーズをゲーム形

式で学びました。習ったフレーズを買い物やレストランで使って通じた時はとても嬉しかったです。



スイスのユングフラウヨッホ



ハイデルベルク城

フライブルクはスイスやフランスの近くで、ドイツの北にも南にも行きやすい都市であったのでスイスのユングフラウヨッホや、ドイツのハイデルベルクやカールスルーエなど様々な都市に行きました。サマーコースの事務所では毎日イベントが開催されていて、僕はハイキングとビアガーデンに行きました。そして週末にはバイエルン地方のノイシュバンシュタイン城に行きました。城の中は見学することができ、素晴らしい眺めを一望することができました。そしてマリエン橋から見た城は今でも鮮明に覚えています。

この1か月間で海外の文化を知り日本の良さを再確認することができました。

この経験を将来に活かせればよいなと思っています。

■ サマープログラム・ドイツでの生活

うかい さえか
2年生 鶴飼 幸永佳

今年の8月の1カ月の間、ドイツのサマープログラムに参加させていただきました。私がこのサマープログラムに参加することを決めたのはただ海外に少しばかりの憧れをもっていただけでした。そんな単純な動機でサマープログラムに参加しましたが、ドイツでの生活は今までの生活では考えられないくらいに活動的で、本当に充実した1カ月間でした。

サマープログラムでは、午前中にドイツ語または英語の授業を受けた後、午後はフライブルク大学主催の特別授業やレクリエーションなどに参加ができました。ドイツ語の授業では、ネイティブのドイツ人の先生に教わりました。授業は全てドイツ語と少しの英語のみによって進められるので、先生が言っていることを理解するのも一苦労でした。しかも私の明らかな語彙力不足もあり、毎回の授業で何度も辞書を引いていました。そんな生活を送った成果もあり、最初の方は英語圏であることに甘えて英語でしかコミュニケーションをとれませんでした。最後の1週間ほどでは簡単なドイツ語を聞き取れるくらいには成長できました。午後の時間はフライブルクの市内観光、フライブルク大学の近くの小高い山へハイキング、バーベキューなど様々なレクリエーションに参加しました。このレクリエーションでは、日本以外の



コルマルの街並み

■ 行ってよかった！ドイツ留学

ゆきこ
2年生 久保 薫子

私はこの夏ドイツのフライブルク大学でのサマープログラムに参加しました。

海外に行ったことがなく、英語は得意じゃない、もちろんドイツ語は話せない、そんな私はとにかく不安でいっぱいでした。

しかし、初めて尽くしのことばかりで、驚きと感動でいっぱいの日々を過ごすことができ、とっても楽しかったです。あっという間に過ぎた3週間でした。

休日にはフランスのコルマルやスイスのバーゼルに行ったり、フュッセンやイタリアのミラノへ旅行したりといろんなところにも行けました。

てきた方々とコミュニケーションをとるのは、言葉の壁が大きく、難しいなと思います。しかし、少しでも話ができて一緒に笑ったり、あいさつができたりするだけでも十分に楽しくて嬉しく思いました。サマープログラムには京都薬科大学の学生と薬学部の学生を対象にした薬局見学がありました。この薬局見学は、フライブルク大学の附属病院の薬局で行われ、中の案内は日本語に通訳をしてくださいました。見学させていただいた薬局はとても広く、高性能の機械もありました。日本には絶対に見られないドイツの薬局の見学ができ、また現場で実際に働いている方のお話が聞けて、とても貴重な体験になりました。また、レクリエーションに参加しない日の午後は友達と相談をして電車に乗って少し遠くに行ったり、学生寮に帰ってみんなで集まって夜ご飯を一緒に作って食べたりしました。電車やバス、またトラム（路面電車）はもちろん日本での様式と全く違うので、自分たちで計画をして出かけるのも結構大変でしたが、自分たちで調べて行動することに意味を感じました。



ノイシュバンシュタイン城

このように貴重な体験、楽しい体験をととてもたくさんドイツでさせていただきました。異文化とのギャップや言葉の壁があり、また初めて自分の家族と1カ月も離れての海外生活だったので大変なこともありましたが、しかし、その分の貴重な体験、一生記憶に残る思い出や大切な友達ができました。このサマープログラムを紹介してくださった桑形先生、サマープログラムの参加に協力してくれた両親に感謝します。この経験を活かしてこれから行動したいと思います。

このように貴重な体験、楽しい体験をととてもたくさんドイツでさせていただきました。異文化とのギャップや言葉の壁があり、また初めて自分の家族と1カ月も離れての海外生活だったので大変なこともありましたが、しかし、その分の貴重な体験、一生記憶に残る思い出や大切な友達ができました。このサマープログラムを紹介してくださった桑形先生、サマープログラムの参加に協力してくれた両親に感謝します。この経験を活かしてこれから行動したいと思います。

他にも、大学のウェルカムバーベキューに参加したり、ワイン祭りやTitiseeという湖に行ったりと毎日が充実していました。

ドイツといえばソーセージとビール

を想像するように、街にはたくさんの種類があり、特に、ランゲローテというソーセージをパンに挟んだものにはまってしまい、ほとんど毎日食べていました。

基本は自炊をしていて、スーパーマーケットには殻に色の付いた卵など日本で見たことのないものがたく



授業で行ったSeeparkで

さん置いてあり、行くだけでワクワクし、寮のキッチンで友だちとごはんを作るのも毎日の楽しみでした。

もちろん、遊んでいただけではなく平日の午前中は授業があったので、毎日きちんとドイツ語の勉強をしました。日本とは異なり少人数制の会話中心の授業で、ボールを使ったり、音楽に乗ったりとゲーム感覚で、ワイワイしながらできました。少しドイツ語が分かるようになってきたとき、授業で公園に行き、ドイツ人に質問をするということをしました。このとき少しだけですが、会話をするのができ本当に嬉しかったです。ドイツに来た当初は出来なかったことなので、自分の成長が感じられた瞬間でした。

また、薬学生ということでフライブルク大学附属病院の薬剤部に見学に行くことができ、ドイツの医療現場を学ぶことができました。ドイツの薬剤師は医師や弁護士と同じぐらいの地位で、多くは町の薬局で働き人々の健康を支えているということにはビックリしました。

今回ドイツに留学して、異文化の人たちと話をして交流することがどんなに楽しいことかを知ることができました。また、薬剤部の見学や海外で生活するという貴重な経験によって、様々なことに対する視野が広がり、将来のことを考えるよい機会となりました。

この留学で学んだたくさんのお話を、これからの人生に生かしていきたいと思っています。

ドイツでサポートしてくださったスタッフの皆さん、いろんなことを教えてくれた先生とルームメイトのみんな、そしてドイツで出会った友だちに感謝の気持ちでいっぱいです。とっても楽しく、幸せな時間を過ごせました。Vielen Dank!



ノイシュヴァンシュタイン城にて

■ ドイツ留学

まき
2年次生 岡村 真生

私は、8月にドイツのフライブルク大学に留学していました。フライブルクでの生活を報告したいと思います。

フライブルクは、フランクフルト空港からバスで3時間程度の位置にあります。

フライブルク大学の寮に着いたのはもう日付が変わる少し前でした。日本より街灯がはるかに少なく、夜に建物の外を歩くのは友達と一緒にいても初めてのころは結構こわかったです。

フライブルクに着いた次の日は、フリーだったのでフライブルク市内を観光しました。街のシンボルである大聖堂に行ったり、街中を散策して、日本の街並みとあまりにもかけ離れているので、まるで夢でもみているような気分でした。フライブルクでの生活に慣れた頃にこの日を思い出すと初心にもどれました。

大学での授業は、楽しかったです。ドイツ語でうたったり、ボールを投げて自分たちで問題を出し合ったりと外国語の習得の仕方が日本とは異なっていました。英語でドイツ語を学んでいたの



プログラム打ち上げ
パーティーにて

で、ドイツ語も英語も両方勉強できてよかったです。教室では3つの言語が飛び交っていました。日本人だけのクラスでしたが、他の大学の学生さんとも友達になれてよかったです。

放課後や土日の過ごし方についてですが、日本にいるときとは比べものにならないくらい動きまわっていました。プログラムの初めのころは、フライブルク市内の丘に登ったり、大学のコース事務局主催のエクスカッションでボーデンゼーやフランスのアルザス地方へバスで行きました。慣れてくると、自分たちでチケットを取って、放課後にスイスのチューリッヒやバーゼルに鉄道を利用して遠出しました。最後の土日にはパリに行きました。言葉も完全には通じない、土地勘もない場所に行って、ハプニングが何度も起こりながらも無事に日本に帰ってこれたことは自信になりました。1人ではかなり難しかったです。チームプレーの賜物です。

寮での生活は最高でした。キッチンとバスルームが、私を含む4人での共用で、つかず離れずの距離感がちょうどよかったです。フラットメイトとは、キッチンで一緒にランチをしたり、遊びに連れて行ってもらったりしてお世話になっていました。

何度か国境をわたっていると、どの国に入ったのかわかるようになってきます。フランスやスイスからドイツに帰るとほっとしていました。フライブルクは心のふるさとです。

ドイツに行かせてくれた両親、行動を共にした友達、相談にのってくださった桑形先生をはじめ、たくさんの方に感謝します。



マルティン塔

外国人留学生交流会を開催しました

Event

国際交流推進室

大学院に所属する外国人留学生と日本人大学院生・職員との交流会を10月17日（金）18時より躬行館食堂にて開催しました。当日は10名の外国人留学生を含む、40名以上の参加がありました。

乾学長による歓迎のスピーチにより交流会は始まりました。交流会では主に英語が話されました。中国、タイ、シリア、マリからの留学生たちは、日本語と英

語だけでなく、それぞれの母国語（中国語、タイ語、アラビア語、フランス語）に関する話や、文化、京都の話等で盛り上がりました。会の半ばでは、10名の外国人留学生の自己紹介も行われ、交流が深まりました。

今後も様々な企画を検討し、交流会を定期的に開催していきます。



「研究倫理ガイダンス」を実施しました

Event

教務部委員会委員 藤室 雅弘 教授

最近、日本国内から発表される学術論文や学位論文において、データのねつ造や文章の盗用などの研究不正が指摘され問題となっています。特に、今年理化学研究所から発表されたSTAP細胞やその作製技術の論文において、データの切り貼りや実験とは無関係な画像データが使用されたこと、さらに、STAP細胞に関する研究ノートに多くの不備があったことが明らかになりました。この一件は科学界のみならず、マスコミを通じて国民の間でも大きな話題となったことは、皆様よくご存じのとおりです。STAP細胞は一般社会や医療関係者、世界中の研究者に大きなインパクトと期待を与えましたが、このような研究不正が明るみになり、特に一般社会からの科学に対する信頼を失わせることになりました。

また、社会への影響の大小に関わらず、研究不正が多発していることが国内外で問題となっており、世界中の大学や研究機関で「研究倫理教育」の重要性が指摘されるようになりました。このような背景から、京都薬科大学では、研究倫理の教育冊子「責任ある研究活動 研究規範（ルール）について」を作成しました。また、これから卒業研究を始める3年次生に対して、研究倫理ガイダンスを実施しました。

10月17日と21日の両日、後藤教務部長がまず、研究倫理の概略と重要性について説明しました。その後、

データのねつ造や改ざん、盗用（いわゆるコピーペス）などの研究活動における不正行為、さらに、研究ノートの作成と研究データの取り扱い、動物実験やヒトを対象とした研究などを行うための研究ルールについてのガイダンスを実施しました。

なお、既に分属している4、5、6年次生に対する研究倫理ガイダンスは学生が所属する分野やセンターで行います。教員も含めて本学の学生はどのような研究姿勢が責任ある研究活動なのかをしっかりと理解し、科学に携わる者として自己の良心に従い、常に正確で客観的な研究姿勢を持つことが求められています。今回のガイダンスにより、その意識がさらに高まることを期待しています。



2014年8月6～8日の3日間にかけて圓山大飯店（台北）において開催されたInternational Conference on Education, Psychology, and Social Sciences(ICEPS)2014において学会発表を行いましたので、以下ご報告いたします。

フォン教授および6年次生1名が口頭発表を行い、5年次生4名がポスター発表を行いました。（発表タイトル、発表者は下記参照）ICEPS 2014は、開催国の台湾をはじめ、シンガポール・香港・マレーシア・フィリピン・インド・タイ・インドネシアなどのアジア諸国、そしてアメリカ、オーストラリア、イスラエル、フランスなどの各国から研究者や学生が集う非常に国際色豊かな学会であり、当分野からの参加者にとっても非常に有意義な経験となりました。

我々の口頭発表においては、他国からの参加者との間で活発な質疑応答がなされ、多くの参加者の興味の対象となったという印象を受けました。我が国のように英語が公用語もしくは教授言語とされていない国々からの参加者のみならず、日常的に英語が

使用されているシンガポールやオーストラリアなどの国々の研究者にとっても、科学英語と一般英語の違いや科学英語教育の重要性という話題は新鮮なものであったように思われます。



Prof/Dr. FOONG



樋口 裕城（6年次生）

<口頭発表>

Prof/Dr. FOONG

演題：Correlation of Written Test Scores and Presentation Ability in Science English Learning

演者：Foong FW, Kamada M, Hibino K

樋口 裕城（6年次生）

演題：First-Time Poster Presentation in Pharmaceutical Science English: Questionnaire Feedback from Pharmacy Students in a Japanese University

演者：Higuchi Y, Hirai A, Okazaki Y, Foong FW

また、5年次生が行ったポスター発表は、彼らにとって初めての国際学会での発表機会であり、貴重な経験となったと思われます。海外からの参加者か

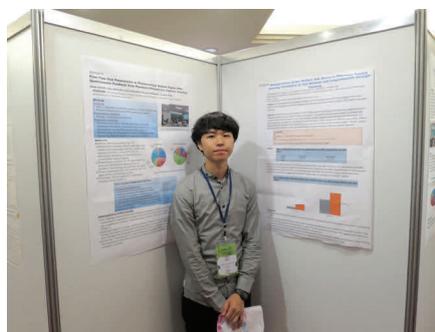
ら質問を受け、それに対して英語で返答できたことは、参加した学生にとっては大きな達成感を得られる経験であったと思います。

<ポスター発表>

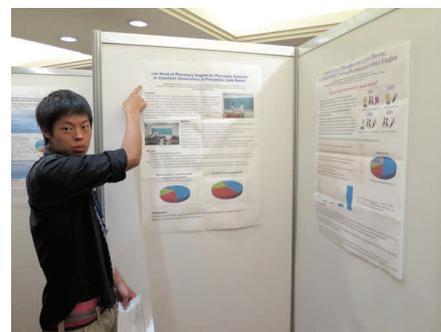
1. 演題: Multiple-Choice versus Written Test Scores in Science English Learning: Test Correlation and Comprehension through Teaching
演者: Ogasawara H, Matsuno H, Wajima R, Foong FW
2. 演題: The Need of Pharmacy English for Pharmacy Students in Japanese Universities: A Perception Case Report
演者: Hasegawa K, Wajima R, Matsuno H, Noguchi A, Ogasawara H, Nakai H, Higuchi Y, Foong FW
3. 演題: Effective Lecturer-Student Microphone Use in a Lecture Room: A Useful Approach for Teaching and Learning Pharmaceutical Science English
演者: Matsuno H, Ogasawara H, Noguchi A, Hasegawa K, Wajima R, Foong FW
4. 演題: First-Time Oral Presentation in Pharmaceutical Science English: Questionnaire Feedback from Pharmacy Students in a Japanese University
演者: Wajima R, Matsuno H, Hasegawa K, Ogasawara H, Foong FW



わじま
和島 利可子、松野 ひかり
(5年次生)



小笠原 浩之
(5年次生)



けいと
長谷川 慧人
(5年次生)

さらに、学会終了後の余暇時間には参加した分野メンバーで現地の料理を堪能することができ、良い思い出となりました。また、博物館（国立故宫博物院）を訪問し、古代から近現代までの中華文明に関する展示物について学んだほか、夜市（士林夜市、シーリンイエシーラオハージェイエシー饒河街夜市）で現地の食文化を体験することもできました。

概ね成功を収めた今回の学会発表ではありました

が、これは卒業後の進路に向けて、多忙な日々を送る中、スライド作成や後輩の指導に取り組んでくれた6年次生の樋口裕城君や、実務実習期間後の束の間の休息時間をポスター作成などの準備に割いてくれた5年次生たちの努力の成果と言えます。また、高額の学会参加費や渡航・宿泊費を学生が自ら全額負担し、学会参加を決めたことは当分野所属の学生の学問への積極性を示す行動であったと自負しております。

NEWS

学生総合保障制度（こども総合保険）ご加入者の皆さまへ

取扱代理店の移転に伴い、連絡先が変更となりましたので、お知らせします。

【変更後連絡先】

■取扱代理店

『近電商事株式会社』

電話番号：06-6233-5951

FAX 番号：06-6233-5956

住 所：〒541-0048

大阪市中央区瓦町4-2-14

瓦町3階

担 当：阿倍

■引受保険会社幹事会社

『AIU損害保険株式会社』

電話番号：06-6356-5799

住 所：〒530-6034

大阪市北区天満橋1-8-30

OAPタワー34階

担 当：柴田・清水

2014年11月2日（日）に秋のオープンキャンパスを開催しました。曇り空から雨模様となる天候でしたが、同日は京菓祭の模擬店出店等もあり、421名（前年比110.8%※）の参加者がありました。会場を躬行館T31講義室とし「学長挨拶」、「大学紹介（入試広報委員長）」、「在学生の話」、「卒業生の話」を行い、「見学施設の概要」を説明後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、6年次生の名城有理さんから本学を志望した理由、語学留学やアルバイト、分野での研究活動や進路選択の流れなど、自身の体験を通した話がありました。

「卒業生の話」では、株式会社ファルコファーマシーズに勤務されている内田友絵様をお招きして、本学の魅力や本学を選んだ理由、本学に在籍し経験したことのメリット、薬局薬剤師としての仕事などをわかりやすくお話していただきました。

「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、躬行館にある6分野及び図書館の協力を得て見学を行いました。

「在学生の話」、「卒業生の話」、「施設見学」どれも、参加者の方々からたいへん好評をいただきました。

「相談会」は、本学の職員と在学生在が相談員となり、112名（前年比99.1%）の方々に参加されました。相談内容は、入学試験や進路、奨学金、学生生活などで、参加者の方々がとても熱心に質問、相談される姿が印象的でした。

今後とも、参加者の方に本学の教育・研究環境を知って戴くためにオープンキャンパスをより一層充実したものにしていきます。

※参加者内訳 高校1年生：54名、2年生：90名、3年生：48名
既卒生：9名、付添者：220名



施設見学



相談会

2015年度推薦入学試験結果

2015年度推薦入学試験の内、指定校制推薦入学試験が2014年11月10日（月）に、一般公募制推薦入学試験は11月15日（土）に実施され、11月26日（水）に合格発表が行なわれました。その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	52名	52名
一般公募制推薦	80名	351名	83名

Library News

開館日程

2015年 1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2015年 2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2015年 3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

□ 8:30-21:00 □ 8:30-17:00 □ 10:00-17:00 □ 休館 □ 休館=館内整備

シラバスにも一部掲載されているように、2014年度後期の試験日程は別表のとおりです。

再試験受験手続が遅れる学生が、例年見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）をよく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

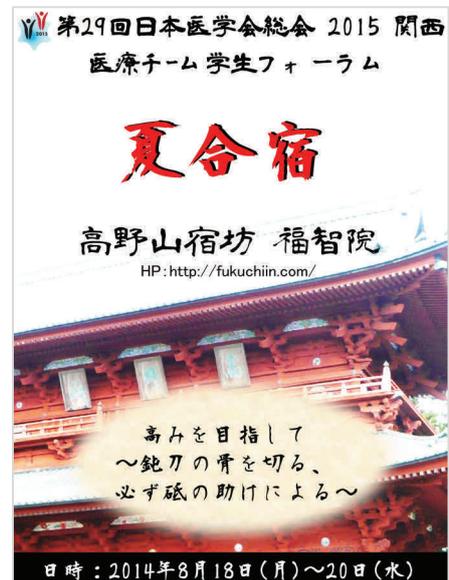
《後期試験等日程表》

年次	試験	試験期間	合格発表	受験手続日
6	薬学特別演習 本試験	1月7日(水) 1月8日(木)	1月19日(月)17:00～ 1月25日(日)24:00 Webによる公開	—
	薬学特別演習 再試験	2月4日(水) 2月5日(木)	卒業査定会[2/17(火)]後 成績通知書を配付	1/20(火)・1/21(水)
4	後期試験	1月9日(金)～ 1月16日(金)	1月27日(火)17:00～ 2月3日(火)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月4日(水)～ 2月9日(月)	2月16日(月)17:00～ 2月20日(金)24:00 Webによる公開	1/28(水)・1/29(木)*
	前・後期再試験Ⅱ	2月20日(金)～ 2月27日(金)	進級査定会[3/20(金)]後 成績通知書を配付	前期科目:1/28(水)・1/29(木)* 後期科目:2/17(火)・2/18(水)
	OSCE本試験	12月13日(土) 12月14日(日)	別途掲示告知	—
	OSCE追・再試験	3月5日(木)	進級査定会[3/20(金)] 後に通知	別途掲示告知
	CBT本試験	1月22日(木) 1月23日(金)	別途掲示告知	—
	CBT追・再試験	3月3日(火)	進級査定会[3/20(金)] 後に通知	別途掲示告知
1～3	後期試験	1月19日(月)～ 1月27日(火)	2月10日(火)17:00～ 2月20日(金)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月20日(金)～ 2月27日(金)	進級査定会[3/20(金)]後 成績通知書を配付	2/12(木)・2/13(金)

*4年次前期再試験Ⅱと後期再試験の受験手続を同時に行なうので、該当者は注意してください。

いよいよ開催が迫ってきました、『第29回日本医学会総会 2015 関西』のイベント企画として「医療チーム 学生フォーラム」で、医療に関する様々な職業を目指す学生達と勉強会や講演会を主催し研鑽を積み、2015年総会で発表を行う本学実行委員4名が、仲間との合宿でプレゼン能力の向上にチャレンジしてきました。報告及び感想を紹介します。

夏合宿 開催日時：2014年8月18日（月）～20日（水）
場 所：高野山宿坊 福智院（和歌山県）



いわさだ

■ 5年次生 岩貞 有紀

プレゼン強化合宿と称された今回の合宿は、いつもとひとあじ違ったものでした。合宿を通して、1番感じたことは言葉を選ぶことの大切さです。正しく相手に伝えるためには、言葉の定義や話す順序を誤らずに論理的に話さなければならない。医療についてだけやっているわけではないこの学生フォーラムでの活動を、責任をもって楽しみながらやり遂げたいと思います。

よしどめ

■ 3年次生 吉留 利香

今回の夏合宿を迎えるまで、私は2015年の医学会総会での発表をまだなんとなく先のものとしか捉えておらず正直地に足の着いていない状態で高野山に向かいました。

特になにをしようかと決めているわけでもなく、ただ皆で集まって話すだけで終わるだろうと思っていた夏合宿がまさか自分たちのチームの方向性をがらっと変えるだけでなくメンバーの結束を固くするとは予想だにしていませんでした。

「なにを伝えたいのかが全くわからない」とはつきり全てのアドバイザーの先生方に言われ、今までの自分たちの考えの甘さを痛感してもうどうしようもないと思いました。しかし、ふっと「医療従事者

あきら

■ 4年次生 浅野 瑛

分科会活動や医療の担い手projectという医療系学生向けイベントの代表経験の中で、自分の意見と相手の意見が衝突することが多々ありました。そんな時、両方の意見を天秤に掛け、内容だけでなく実現の可否や期限までに達成できるかをメンバーの状況や予算、スポンサーの意向等を考えて実行するといった、普通に学生生活を過ごしては経験できないようなマネジメント経験ができ、自分の成長と弱点を実感できる二年間でした。

の労働環境を改善したい」というアイデアが思いつきそのままテーマに決まったあとはチーム全員で真剣に考え、作業をし、ディスカッションを重ねる楽しさで時間を忘れました。

この合宿をサポートしているTEDxKyotoの方々にもたくさんアドバイスを頂き、夜通し話し合っただけで作ったプレゼンはきちんと身のあるものが作れたと思います。

2015年の本番での内容もきちんと決まり、あとは詰めていくだけ、と道筋がきちんと定まった今回の夏合宿は本当に貴重な経験だったと感じています。関係して下さった全ての方々に感謝し、これからも前進して行きたいと考えています。

くさかべ

■ 2年次生 日下部 葵

高野山での夏合宿に参加して一番の収穫は、来年の医学会総会本番に向けての責任感がより増したことです。プレゼンテーションのプロの方たちに自分達の発表するうえでの未熟さを教えていただいただけでなく、本番に向けて自分達の分科会の話し合いなどをする余地がまだまだあることにも気づけました。また、他の分科会と活動を共にする機会も普段ないので、今回はそれができて良い刺激を受けることもできました。本番に向け、今まで以上に積極的に取り組んでいきます。

■ 参考 ■

第29回日本医学会総会 2015 関西

The 29th General Assembly of the Japan Medical Congress 2015 Kansai

開催日時：2015年4月11日（土）～13日（月）

開催場所：国立京都国際会館を中心に
グランドプリンスホテル京都
京都大学百周年時計台記念館
京都大学医学部芝蘭会館

※詳細は<http://isoukai2015.jp/index.html>をご覧ください。

総会で、「医療チーム 学生フォーラム」の仲間の発表を是非聴いて、学生の皆さん自身の能力向上、精神的な成長に繋げていただくよう期待します。

NEWS 京薬会だより

<ホームカミングデーの開催>

本年も母校の大学祭「京薬祭」にあわせて11月3日（月・祝）に第5回ホームカミングデーを開催しました。会は躬行館講義室において歓迎セレモニー、ならびに講演会を行い、その後躬行館食堂においてパーティーを開催しました。今年も多く卒業生の皆さんにご参加いただきました。

歓迎セレモニーにおいてはまず西野京薬会会長、武田京都薬科大学理事長、乾学長ならびに島川学生自治会代表の歓迎挨拶があり、引き続き乾学長より京都薬科大学の近況として国家試験の結果、進路状況の紹介に続き、グローバルなファーマシスト・サイエンティストの育成また、ナンバーワンを目指した種々の取り組みについて紹介がありました。

今年の講演会はまず、京薬会会長西野武志氏より、会長が議長を務められた薬学教育評価機構・総合評価評議会による薬学部の評価についての解説があり、ついで、本学、臨床薬理学分野教授、中田徹男氏より「高血圧の管理指針が変わりました」と題して高血圧治療ガイドライン2014での降圧目標値と

主要降圧薬の積極的適応の変更点を中心に最新の話題提供がありました。

会場を移して行われた歓迎パーティーでは京薬会河野副会長の乾杯のご発声ではじまり、受付時に参加者にお配りした金券を使って学生の出張販売を購入したり、また、模擬店に繰り出したりと、卒業生同志また、卒業生と在学生の交歓が随所に見られ、非常に和やかな会となりました。なお、お配りした金券は各クラブ、サークルに現金として還元し、活動の援助を行っております。

このように年々盛会となっておりますが、今年はこの会にあわせてミニ同窓会を開催したり、同期の仲間で誘い合わせて参加し、歓談したり、といった光景もあり、このような形でもこの会を利用していただけたらと思います。来年もまた新しい企画を用意し、11月初旬の京薬祭に合わせて開催しますので、お誘いあわせの上母校にお越しく下さい。卒業生の皆さんの多数の参加をお待ちしています。

<優秀クラブ表彰>

今年も11月2、3日の両日、1964年に始まり、今年で50回目を迎えた京薬会協賛の京薬祭が「50 years in CAPSULE」をテーマに学生はもちろんのこと、子供たちも楽しめる企画など盛りだくさんの企画で開催されました。中庭のプラクティテラス特設ステージの催し、ステージ前の中庭での模擬店と夜遅くまでにぎわいました。

京薬祭の2日目には、恒例の京薬会によるクラブ表彰が行われました。今年も優秀クラブとしてヨット部、卓球部、軽音楽部が選ばれ、副賞を添えて表彰しました。

京菓祭が無事終了し、ほっとしている反面、毎日夜8時に集合し実行委員64人で活動することがなくなったことになにか物足りなさを感じております。

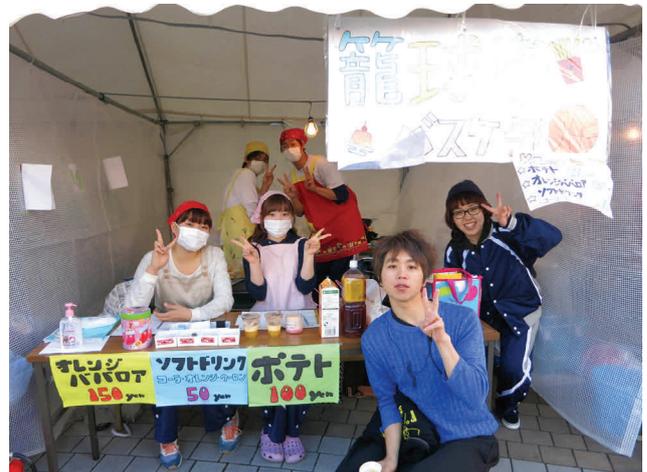
今年で京菓祭は50周年を迎えました。第50回京菓祭実行委員長を務めさせていただくということは、ありがたいことでもありましたが、プレッシャーを感じることもありました。その度、実行委員会のメンバーはもちろんのこと、OB・OGさんや周りの大人の方々が相談に乗ってくださいました。自分はひとりではなく、様々な人々に支えられているということを実感するとともに、京菓祭が50年間続いている偉大さを痛感いたしました。また、50周年ということで今年は様々なことに挑戦させていただきました。電車の広告掲載、マップの作成、ステージ企画に50に関する内容を盛り込むなど、実行委員で試行錯誤いたしました。私たちが作り上げた第50回京菓祭が少しでも多くの人の心に残ればと願っております。



今年の学園祭のテーマ

振り返れば、わたしが実行委員会に入ったのは、部活枠という、各部から代表が実行委員会に入るといった決まりのもと、半ば強制であったため、やる気があふれている感じではありませんでした。1年次生のときは友達としゃべりながら夜に作業をするのが楽しいといった感じで特別な達成感などを感じることはありませんでした。しかし、学年が上がり、関わっていく人が増え、自分の仕事に責任が出てきました。それにより、しんどいことも増えましたが、楽しさや達成感も増えました。そして、今年実行委員長という責任ある役職を務め、やはり3年間の中で一番苦しいことも多かったです、一番楽しかったと思います。学園祭の運営に一緒に携わってくれた幹部だけでなく、委員として学園祭を手伝ってくれた3年次生、ステージ企画を盛り上げてくれた1,2年

次生にとっても感謝しています。実行委員会はただ京菓祭を運営するだけでなく、自ら考え、様々な人と関わり、仲間と協力し高めあえる素晴らしい場所であると考えます。今では、実行委員会に入ってよかったと胸を張って言えます。



模擬店の様子

来年の京菓祭のために既に活動している実行委員の後輩たちも実行委員会に入ってよかったと胸を張って言えるように1年間頑張って活動に励んでもらいたいと心から願っております。

最後になりましたが、2014年度京菓祭の開催にあたり、ご理解、ご協力をいただきましたすべての関係者、近隣住民の皆様に深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。これからも、京菓祭をよろしく願いたします。



学園祭の様子

2014年6月～7月に実施した第2回学生生活調査の結果について、その概要を次のとおり報告いたします。学生の皆さんには、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

「学生生活調査」は、在学生の生活実態などについて現状を正しく把握することにより、今後の学生生活支援などの諸施策を考えることを目的として、2010年度より実施しています。今後も継続して実施し、本学の学生生活支援などについて、積極的に改善・改革に取り組む予定です。

1. アンケート調査の実施概要

(1)アンケート用紙は下記の日程で学生の皆さんに配付しました。

- ・1～3年次生：2014年6月18日（水）～20日（金）（1講時と2講時間にアンケート配付）
- ・4～6年次生：6月中旬に各分野へアンケート配付

(2)回収については、学内及び各分野に回収箱を設置しました。

2. 回答数・回答率

回答数・回答率は以下のとおりとなりました。（前回：2010年9月実施）

	学年	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	院生	合計	回答率
前回	回収数	295	210	148	158	111	—	—	931	49.4%
今回		196	151	118	177	130	197	14	998	43.2%

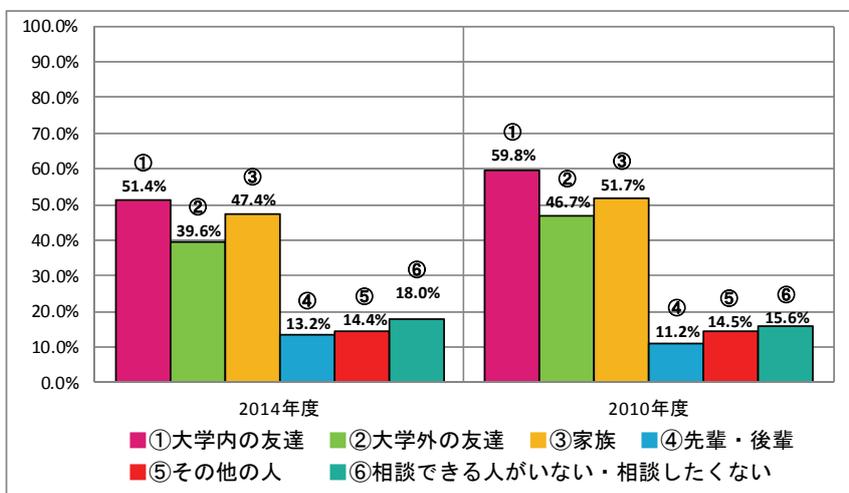
3. 総括

調査の結果、学修面では、学生の自主学修時間が前回結果と比較して増加傾向にあり、12%ほどの学生は、1日4時間以上勉強していると回答していました。また、講義の出席率を質問したところ、「ほぼ100%」の回答が3年次以下は85%でしたが、4年次以上は62%に留まりました。

日常の生活面での前回結果からの特徴的な変化としては、1日あたりのインターネットの利用時間の増加が挙げられます。前回調査時(2010年)以後、スマートフォンが普及したこともあり、1日4時間以上インターネット(SNS含む)をしている学生が、前回の12%から、今回は20%まで増加していました。

学生の悩みに関する調査では、学生が悩みを抱えた時は、前回、今回ともに約半数の学生が家族に相談をしていると回答しており、ご家族の方の支えの重要性を改めて認識することとなりました。一方で、「相談できる人がいない・誰にも相談したくない」と回答した学生が前回から増加傾向にあり、大学とご家族の方々が連携してより一層のケアを行うことが望まれます。本学では学生に様々な悩みをご相談いただくために、精神科医師による「心の健康相談日」や臨床心理士による「学生相談室」を設けています。ご利用をご検討の際は、本学学生課にお気軽にご相談ください。

Q. 不安や悩みを持った時に誰に相談しますか。
(2年次～5年次生の集計)



4. 参考

本調査の詳細な報告書は本学ホームページに掲載しています。

(URL : http://www.kyoto-phu.ac.jp/campus_life/life_survey/2014.pdf)

2014年度の教育後援会総会が、10月3日（金）13時30分からA31講義室に於いて開催されました。今年は例年の参加人数を大きく上回り、180名のご父母にご参加いただきました。

はじめに、福田会長、武田理事長の挨拶があり、乾学長から大学の近況等について説明が行われました。続いて、1年次生父母幹事清水様様の会計就任など役員のご紹介があり、その後議事に移りました。

まず、2013年度決算と2014年度事業計画案・予算案について報告が行われ、2014年度予算については下記のとおり承認されました。なお、2014年度からの新規事業として、「京菓祭への支援（学生補助金から20万円支出）」「2015年度入学式における新入生昼食代補助」「長期実務実習に向けたワクチン接種代補助」の3件が新しく追加されています。このうち「2015年度入学式における新入生昼食代補助」は、2015年度入学式が行われる国立京都国際会館の都合上、飲食の持ち込みが一切できず、昼食は会場のレストランで提供さ

れるもののみとなること、またその場合は昼食代が1人1,080円となり新入生にとって負担が大きくなるため、単年度のみ教育後援会から補助することとなりました。

その後、副学長・教務部長の後藤教授から「薬剤師国家試験対策について」、進路支援部長の西口教授から「本学の進路支援について」の講演が行われ、最後に長澤副会長より閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

参加したご父母からは、「大学の現状についての詳細な説明があり理解が深まった」「今年から国家試験対策の話が加わり、低学年からの学びが重要であることがよくわかった」「家族がどのような支援をしたらよいかについて役立つ情報が得られた」などの感想が寄せられ、概ね満足いただけた内容であったように思います。

来年度も同時期での開催を予定しております。日程が決まり次第、改めて本誌及び案内状にてご案内いたしますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

●2014年度教育後援会予算（一般会計）

項目	予算額	備考
学生生活支援事業	1,500,000	学生教育研究災害傷害保険料補助（6年間分）
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金
	150,000	弔慰金
	1,500,000	課外講座受講料補助（学内で開講する課外講座の受講料の一部を補助）
	200,000	一般図書への寄贈
	500,000	卒業祝賀会への協賛
	1,117,200	卒業記念品の贈呈
	410,400	2015年度入学式における新入生昼食代補助
小計	6,577,600	
父母対象事業	400,000	会合費・事務費・郵送料
	1,200,000	KPUニュース郵送料
小計	1,600,000	
教育研究支援事業	574,560	分子模型の贈呈（2015年度新入生対象）
	1,813,000	参考書「治療薬マニュアル」の贈呈（2014年度4年次生対象）
	1,508,220	インターネットを利用した自己学習支援システム
	1,450,000	長期実務実習に向けた追加ワクチン接種代
小計	5,345,780	
予備費	200,000	
積立金	1,000,000	将来の各種事業に向けた積立金
支出合計	14,723,380	

■ 完璧主義について

目標の達成を志向する完璧主義。確かに完璧主義は、モチベーションを維持し、向上心やパフォーマンスをアップさせる原動力として機能しているときには有効なものです。けれども、行き過ぎた完璧主義は、目標や理想と現実が一致しない事態に陥った場合、時としてその人を苦しめ、結果的に足を引っ張ってしまうことが多い、なかなか厄介なものでもあります。そこで、今回は完璧主義の問題について取り上げてみたいと思います。

自分の思い描く理想や完全無比な成果を得られなければ納得できず、完璧さを追求して自分自身を追い込んでしまっている人。

身近にそんな人がいませんか？と尋ねたら、大抵の人は「ああ、いるいる」と答えることが多いようです。

それでは、あなた自身にもあてはまりませんか？と尋ねられたら、どうでしょうか。「いや、自分の場合は頑張りが足りないから」「能力がない自分が問題で、完璧主義がまずいんじゃない」「そもそも当り前のことを目指しているだけ。完璧主義と呼ぶほどのレベルじゃない」等々、反論したくなる人が案外多いのではないのでしょうか。

確かに自分には目標があるけれど、それはできて当り前のことであって、できない自分が問題なんだと考えてしまう。完璧主義の人が陥りやすいパターンのひとつです。問題が生じた際や自分の思い描く理想や目標を達成できないときに、客観的事実としての吟味はそこそこに、とにかく「自分のせい」「自

分が悪い」と自己否定的に考えてしまい、その結果、自己評価も意欲もどんどん低下させていく、という事態が生じがちです。また、「自分のせい」が反転し、「あの人（他者）・環境のせい」と考えてしまうパターンもあります。こうした傾向が顕著だと、自分（あるいは他）が悪い・不出来だからという文脈でばかり物事を考えてしまい、問題やそれへの取り組み方を再考するという視点が抜け落ちてしまっていることが往々にしてあります。～のせいという思考にとらわれすぎず、問題への取り組み方や仕組みの不具合（目標設定の妥当性の吟味）そのものに目を向けてみることも大切です。問題自体に着目することで、どうできるのか、どうしたらいいのかと問題点の改善や修正の余地を模索するという思考がはたらき、問題対処のチャンスが広がる筈です。

完璧主義を山歩きに例えるならば、頂上制覇にこだわり、周囲の景色は目に入らない、自分の体調にも頓着しない、とにかく登頂完遂を目指すのみ、そんな山歩きになるのでしょうか。これはもったいない気がしますし、怪我や事故の危険も高まります。日常生活においても、一步一步を大切に、できていない事だけでなく、ささやかであっても今できている事、できる事にも目を向け、それを認める努力も怠らないでください。完璧にこだわるあまり、自己評価を下げ、取り組みへの意欲をそいでしまったり、成功や達成のチャンスを逃してしまったりするような事態を是非回避していただきたいと思います。

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で、問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つけたり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つけたりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご活用ください。

● 相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

● サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- 開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- 電話：075-595-4672
- メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください

は せ い ともひろ
公衆衛生学分野 助教 長谷井 友尋
 みやぎたに まさみつ かんちゆう
宮城谷 昌光 著『管仲〈上・下〉』
 文春文庫(2006)

私が管仲に出会ったのは20年ほど前だったと記憶している。当時読んでいた三国志の諸葛亮孔明の発言に「管仲、楽毅（がっき、がくき）のごとく・・・」といったセリフがあった。これが私の管仲との出会いであった。諸葛亮は春秋時代の齊の宰相である管仲と戦国時代の燕の將軍である楽毅を崇拜しており、その管仲が諸葛亮だけでなく私を魅了するのにそれほど時間は要さなかった。辺境の国であった齊を大国に押し上げて、君主である桓公（かんこう）を中華の覇にさせた偉大な宰相、当時の私が感じていた管仲の魅力とは宰相としての強固な力量であった。

あれから年月を経たが、今でも私は管仲に魅了され続けている。では相変わらず管仲の宰相としての力量に魅かれているのか、と問われればそうではない。管仲と鮑叔（ほうしゆく）、そして両者と桓公との揺るぎない信頼関係に私は魅了されている。没落貴族の管仲を取り巻く不幸な状況下で管仲を評価し続けたのは鮑叔のみであった。公子小白（こうししょうはく）（のちの桓公）の教育係である傅（ふ）となった鮑叔は、公子小白と君主の位を競う公子糾（こうしきゅう）の傅である管仲と競合していくが、管仲が公子小白を殺そうとしても管仲に対する鮑叔の信頼が揺らぐことはなかった。そして公子糾をしのいで即位した桓公もまた、鮑叔の言を取り入れ、自身を殺害しようとした管仲を宰相として採用する。鮑叔と桓公の器の大きさは尋常ではない。それほどまでに両者からの信頼を得た管仲の人間としての魅力を本書は伝えてくれる。

最後に本書の冒頭について述べておく。本書は鮑叔が留学のために訪れた周の洛陽において、偶然管仲に出会うシーンから始まる。アップルコンピュータのCEOを務めた故スティーブ・ジョブズは生前「未来を見て、点を結ぶことはできない。過去を振り返って点を結ぶだけだ。だから、いつかどうにかして点は結ばれると信じなければならない」と述べている。管仲の後の活躍と、鮑叔との信頼関係を知る現代の私達から見れば、この出会いは「必然」である。管仲が鮑叔に出会わなければ、管仲が齊を春秋時代の超大国にのし上げることはなかっただろうし、そもそも管仲という人物は仕官も叶わず歴史の中に埋もれてしまっていただろう。

私達は今、目の前で起こっていることの本当の意味を知ることはできない。後々になって過去のできごとを振り返り、感謝することがある。大学生活においてみなさんは勉学に尽力するとともに、様々な人と出会うであろう。それらのできごとがみなさんの現在にどのような影響を与えるかは定かではない。しかしながら、過去を振り返ってみるとあれが人生のターニングポイントであった、と感じる時がいつか来る。人は自身とその未来を信じ、一瞬一瞬を大切に生きなければならない。本書はそう暗示しているのではないだろうか。

※本書は図書館内の本誌推薦書コーナーにございます



コトバの『豆クイズ』5 ～外国語編1～

（出題者 鈴木 栄樹）

カタカナで書かれた日本語を見ると、ほぼそのまま英語にしても通じるとしてしまいがちです。ところがどっこい、そうできないカタカナ言葉も少なくありません。英語以外の外国語に由来するもの、あるいは「和製英語」の場合もあり、かえってやっかいな言葉です。

さて、次のカタカナ言葉は、英語でどのように表現されるかご存じでしょうか？

- | | | | |
|------------|--------------|-----------|-----------|
| (1) ナトリウム | (2) カリウム | (3) マンション | (4) コンセント |
| (5) クラクション | (6) アンケート | (7) レッテル | (8) カンニング |
| (9) タレント | (10) ホ(ッ)チキス | | |

（解答は29ページに掲載）

開催日	10:00-11:30	12:45-14:15	14:30-16:00
2015年 5月17日 (日曜)	医療の質改善と薬剤師の役割	皮膚疾患の漢方治療	薬局が変われば地域医療が変わる
	聖路加国際病院	聖光園 細野診療所	ファルメディコ株式会社
	院長・福井 次矢 先生	理事長・中田 啓吾 先生	代表取締役社長・狭間 研至 先生
2015年 6月21日 (日曜)	薬物誘発性QT延長症候群について	社会保障制度の方向性と オール薬剤師の役割	がん免疫療法の橋渡し研究
	滋賀医科大学医学部附属病院 呼吸循環器内科	公益社団法人 日本薬剤師会	三重大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫細胞治療学
	教授・堀江 稔 先生	顧問・児玉 孝 先生	教授・珠玖 洋 先生
2015年 7月12日 (日曜)	薬剤師が知っておきたい皮膚疾患と 皮膚科治療薬のスキルアップ講座	“危険ドラッグ”はなぜ危険なのか？	乳がんの薬物療法
	滋賀県立成人病センター	国立医薬品食品衛生研究所 生薬部	滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍センター
	病院長・宮地 良樹 先生	室長・花尻 瑠理 先生	特任助教・河合 由紀 先生

※ 詳細はホームページ (<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>) をご参照ください。
申込受付期間、プログラム内容等は変更される場合があります。

- 受付開始：9:00～（注：受付は、当日講義開始10分前までにおすませください。）
- 認定単位：配付条件①～③に基づき、下記2種のうち、いずれか1種のみ選択配付
 - ※共催：公益財団法人 日本薬剤師研修センター (G01) 1日/計3単位
 - ※後援：一般社団法人 京都府薬剤師会 (PINK21) 1日/計2.25単位
 - 1日の講義時間：90分で1コマ/90分×3コマ＝計270分
 - ・条件① G01及びPINK21の認定単位は、途中入場や途中退室した場合の認定単位の配付は無し
 - ・条件② G01認定単位は、90分で1単位の配付：1日/計3単位配付
 - ・条件③ PINK21認定単位は、1日全て270分出席した場合のみ配付：1日/計2.25単位配付のみ
(90分毎での認定単位の配付は無し)
- 受講料：12,000円
- 注意事項：ご来学の際は、お車の駐車スペースがございませんので、公共の交通機関でお越しください。
- 昼食：各開催日は、本学の食堂をご利用いただけます ※有料（現金払いのみ）学内提供価格になります。
- 申込方法

2015年2月16日（月）～3月22日（日）までの申込受付期間で、(1)または(2)の方法でお申込み下さい。

 - (1) 右記URLアドレス「WEB申込フォーム」より申込み <http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>
 - (2) 電話にてお申込み：TEL 075-595-4677 (TEL受付時間 平日のみ10:00～16:00)
- その他：お支払いされました受講料は、欠席またはキャンセルされた場合は、返金できませんのでご了承ください。欠席された方には、後日テキストを送付いたします。
- 問合せ先：京都薬科大学 生涯教育センター
 - ・TEL：075-595-4677 (TEL受付時間 平日のみ10:00～16:00)
 - ・FAX：075-595-4683 (24時間受付)
 - ・E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号(No. 177)から大学院研究活動を報告しています。ぜひご覧ください。

8月29日(金)

博士課程、博士後期課程総合薬学セミナー、博士前期課程公開セミナー合同発表会を開催

初めての試みとして、薬学研究科分野等が合同で総説発表を行いました。他分野等の発表を聴き、質疑応答を行うことにより、研究活動の活性化に繋がっていきます。

9月19日(金)

NMMS第14回セミナー+細胞生物学分野・薬品物理化学分野合同ミニシンポジウム

テーマ:「機能的核酸の新展開」

概要: 山吉麻子先生(京都工芸繊維大学)と南川典昭先生(徳島大学)に機能的核酸の最先端について講演。藤室教授(細胞生物学分野)と小暮研究科長(薬品物理化学分野)が機能的核酸の応用展開について最新知見を交えて紹介。

10月1日(水)

2014年度前期学位記授与式

課程博士1名、論文博士1名の学位が授与されました。おめでとうございます。

10月11日(土)

第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会64th Annual Meeting of the PSJ Kinki-branch

京都薬科大学を会場として開催し、大学院生も口頭発表を行いました。

10月17日(金)

「とにかく英語を口にしよう！」

英語を自然に抵抗なく話せることを目指し、中央庭園プラクティテラス及び食堂を利用してランチをしながら、気楽に英語で自己紹介から始めました。今後は、大学生活や研究を行っている中で聞いてみたいこと、プレゼンの練習をさせて!など大学院生の皆さんの要望を取り入れながら、英語で話す「ブラウン・バッグ・ランチ」を開催していきます。友達を誘って参加してください。(詳細はP27に掲載)

10月20日(月)

日本薬学会近畿支部 特別講演会

演題:「Biophysical studies of the amyloid β peptide involved in Alzheimer's disease: molecular interactions, secondary structure conversions and aggregation」

講演者: Astrid Gräslund教授(Department of Biochemistry and Biophysics, Stockholm University, Sweden)

概要: Gräslund教授は、ペプチド等の生体物質に関する生物物理学的解析の権威であり、アルツハイマー病に関与するアミロイド β ペプチドの生物物理学的特性に関するご講演でした。大学院生も熱心に聞き入っていました。

11月14日(金)

論文博士学位に係る口述発表

1名の発表がありました。充実した質疑応答により、厳格な論文の審査を心がけています。

11月15日(土)

第8回若手医療薬科学シンポジウム

薬学専攻博士課程3年次生高田哲也さんが、ポスター発表に参加されました。



今年度後期から、大学院英語教育として、新しい試みを行っています。手始めとして、10月17日（金）11時30分～12時30分に「とにかく英語を口にしよう」という企画を実施しました。米国では、昼食時に少人数で食事をしながら様々なことを話す機会を「ブラウン・バッグ・ランチ」と呼んでいます。これの京薬版として、お昼に集まり、まずは英語で自己紹介をしてみよう、というものです。当日は、20名以上の大学院生および若手教員が参加してくれました。一般教育分野の^{じつかわ}実川教授、生薬学分野の中村准教授、薬物治療学分野の天ヶ瀬講師、臨床腫瘍学分野の飯居助教がファシリテーターとなり、教員・院生混合の4～5名のスモールグループを作ってもらいました。「定型文」の空欄に自分の氏名や研究室名などを当てはめていくことで簡単に自己紹介ができるシートを配付し、それに従って順次英語での自己紹介を行ってもらいました。最初はぎこちなかったが、徐々に打ち解けて、途中からは積極的かつ楽しそうに英語での会話を楽しんでいる様子うかがえました。こういう企画を継続していくことで、英語を口から発することへの障壁が少しでも小さくなれば、国際学会などでの英語プレゼンテーションに、より積極的に取り組めるようになるのであろうと期待しています。



第20回 京都薬科大学 公開講座 開催

2014年10月18日（土）、本学躬行館T31講義室および薬用植物園補助園において、第20回京都薬科大学公開講座を開催いたしました。従来の企画内容を一新し、今回は「講演」と「薬用植物園補助園の見学」の2部構成による開催となりました。

はじめに乾賢一学長から開会の挨拶があり、第1部では、本学一般教育分野の鈴木栄樹教授による「鴨川から見た江戸時代の京都 - <橋>と<河原>と<洪水> -」、本学薬化学分野の上西潤一教授による「単位について；科学のサイズと人間のサイズ」の2講演が行われました。102名の参加者からのアンケート結果からは、両講演とも説明の分かりやすさを評価する感想が多く見られました。また、京都や科学に関する内容を評価する声があったほか、今後の講演内容として、医薬品関係等、薬科大学ならではの内容を期待する声も聞かれました。



松田教授のミニ講義



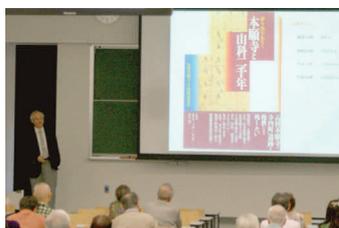
薬用植物園補助園の見学会

第2部では、本学生薬学分野の松田久司教授による漢方薬に関するミニ講義を行った後、薬用植物園補助園での見学会を実施しました。本開催で植物園の存在を初めて知った方が多く、興味深く見学される参加者が多く見られました。また、植物の解説タイムを設け、学生、大学院生を説明係としたことも大好評でした。秋以外での見学や、年に複数回の開催を希望する声も聞かれました。

今回は初めて試みた内容であったことから、参加者数の予想がつかない中での開催でしたが、想定した以上に好評を博したのではないかと思います。これからも地域に愛される大学を目指して、公開講座を継続していきたいと思っております。



鈴木教授の講演



上西教授の講演

ソフトテニス部

活動実績

- 関西薬学生ソフトテニス大会
 - 男子団体 5位
 - 女子団体 5位
 - 男子個人戦 賀来・池内ペア ベスト8
 - 女子個人戦 松尾・鳥本ペア 優勝
- 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ
 - 男子団体 3位
 - 女子団体 予選リーグ3位
 - 個人戦 雨天により中止

今後の予定

- 4月 関西医歯薬学生ソフトテニス大会
- 5月 四薬戦
- 8月 関西薬学生ソフトテニス大会
- 11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

準硬式野球部

活動実績

- 京滋六大学準硬式野球春季リーグ 0勝12敗
- 新人戦 初戦敗退
- 関西薬学生連盟準硬式野球大会 第5位
- 京滋六大学準硬式野球秋季リーグ 2勝10敗

今後の予定

- 2015年3月 京滋六大学準硬式野球春季リーグ
- 6月 新人戦
- 8月 関西薬学生連盟準硬式野球大会
- 8月 京滋六大学準硬式野球秋季リーグ

茶道部

茶道部は毎週火曜日にお稽古しています。大学外から裏千家の先生をお迎えしています。お作法はもちろんのこと、季節の行事やお茶道具にまつわるお話など先生からお話いただけるのも茶道部の魅力のひとつです。

11月の京葉祭では『京わらべ』として模擬店もやりました。オープンキャンパスで訪れていた学生やホームカミングデーに出席されていたOB、OGの皆さんにも来ていただきました。来店してくださった皆様、ありがとうございました。

また、茶道部は毎年4月に建仁寺で春茶会をひらきます。来年に向けてすでにお稽古が始まっています。

軽音楽部

こんにちは、軽音楽部です。
軽音楽部は全クラブの中でも1、2を争うほどの大所帯でとてもにぎやかな部活で、所属している者は皆、個人で楽器の腕を上げたりバンドで演奏したりして楽しく活動しています。また部活全体で上下関係を重んじ、礼儀を知ることによって人間性も高めていこうと思っております。毎年6月と11月にライブを催し、各々が楽しむとともに成長を確認し合ういい機会となっております。

硬式庭球部

活動実績

- 第68回関西薬学生連盟硬式庭球大会
 - 男子団体の部 7位
 - 団体メンバー：井上 健、澤村 隆志、池田 惇
木村 悠希、柴谷 諒
 - 女子団体の部 準優勝
 - 団体メンバー：江端 祥世、下野 香帆、白藤 直子
田中 香凜、夏目 若菜、辻本 美菜
眞下 香歩
 - 男子個人の部 2位 延原 真之
4位 加藤 亮太

植物研究部

11/2～3で行われた京葉祭に参加しました。部員それぞれが好きな花を用いた寄せ植え、夏に育てていたバジルや、バジル染めの展示、果実酢の試飲などを実施しました。

我が部が展示に参加するのは久々とのことで、うまくいくか不安もありましたが、予想より沢山の方に見に来ていただけました。

今後は育てたバジルの種を利用したり、次に育てる植物を考えていきたいと思えます。もし興味のある方はぜひ見学に来てください。



美術部

美術部では、絵の制作およびその展示活動を行っています。絵と言っても、ポストカード、切り絵、絵本など作品形態は様々で、アクセサリを制作する人もいます。活動は、部員の自主性に任せられており、各々が勉学や他の部活動との両立を図りつつ、熱意を持って作品を制作しています。今年は、大学の学祭および6月と8月にギャラリーを借りて展示を行い、5月には京都市動物園でスケッチ会を行いました。

展示会に来ていただいた方々およびギャラリーのスタッフの方々には心から感謝申し上げます。

マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。10月19日（日）の定期演奏会及び11月2日（日）の学祭での演奏では、多くの方にお越しいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで大変よき演奏会となりました。これからも日々精進し、さらによい演奏ができるように頑張っています。

今後ともさらなるご支援ご協力よろしくごお願い申し上げます。

陸上競技部

活動実績

京都学生陸上競技対校選手権大会 (2014年4月)		
女子800m	3位	山口初美

全日本薬学生対抗陸上競技会 (2014年5月)		
男子100m/200m	2位/1位	大川貴也
男子800m	3位	勝山陽介
男子5000m	3位	堀口大介
男子スウェーデンリレー	3位	—
男子円盤投	3位	光岡諒介
女子400m/800m/3000m	1位/1位/1位	山口初美
女子4×100mリレー	1位	—
女子走高跳/女子走幅跳	2位/2位	辻井理紗
男女総合の部：2位 / 女子MVP：山口初美		

全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会 (2014年8月)		
男子ハンマー投	3位	辻雅裕
女子800m	2位	山口初美
女子走高跳	3位	辻井理紗

関西薬学生対校陸上競技大会 (2014年8月)		
男子100m	1位/大川貴也 2位/酒井豪 3位/上田拓	
男子200m	1位/大川貴也 2位/堀井流	
男子400m/800m	1位/3位	勝山陽介
男子110mハードル	2位	酒井豪
男子4×100mリレー	1位	—
男子走幅跳	2位/大川貴也	3位/上田拓
男子円盤投	1位	光岡諒介
男子やり投	3位	辻雅裕
女子200m	2位	平井菜都子
女子400m/800m/3000m	2位/1位/1位	山口初美
女子100mハードル	1位/網梨緒奈	2位/平井菜都子
女子4×100m	1位	—
女子走高跳/女子走幅跳	2位/3位	辻井理紗
女子砲丸投	3位	平井菜都子
男女総合の部：1位 / 男子MVP：大川貴也		

関西医歯薬科学生対校陸上競技大会 (2014年10月)		
女子800m	3位	山口初美

活動予定

- 5月：全日本薬学生対抗陸上競技会
- 8月：全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会
- 10月：関西薬学生対校陸上競技大会
関西医歯薬科学生対校陸上競技大会

コトバの『豆クイズ』の解答

(24ページの解答)

- (1) sodium (Natriumはドイツ語。ソーダ(曹達)はオランダ語sodaから)
- (2) potassium (Kaliumはドイツ語)
- (3) condominium (米語の分譲マンションで、略してcondoとも)、apartment (米語の賃貸マンションで、建物全体はapartment house/building)、イギリスでは、いずれもflat。
- (4) socketのほかにoutlet (主にアメリカ)、power point (主にイギリス)
- (5) (car)horn (元は動物の角、楽器のホルンと同じ。クラクションは製品名Klaxonから)
- (6) questionnaire (アンケートはフランス語enquêteから)
- (7) label (ラベル・レーベルと同じです。レットルはオランダ語のletterから)
- (8) cheating (cunningは「ずる賢い」の意味)
- (9) personality/star/celebrity/entertainerなど
- (10) stapler (ホ(ッ)チキスは、日本で初めて輸入した製品の会社(創立者)名Hotchkissから)

■ 日本生薬学会第61回年会において 優秀発表賞受賞

2014年9月13日～14日に福岡県で開催された「日本生薬学会第61回年会」の口頭発表において、生薬学分野の中嶋聡一さんが優秀発表賞を受賞しました。

演題：インド関連植物の生体機能解明-3:ヘンナ(ヘナ, *Lawsonia inermis*) 花部のPC12細胞分化促進作用

演者：中嶋 聡一^{1,2}、矢野 真実子¹、尾田 好美^{1,2}
中村 誠宏¹、吉川 雅之¹、松田 久司¹

(¹京都薬科大学, ²エヌ・ティー・エイチ 研)

■ 日本薬学会近畿支部総会・大会において ポスター賞受賞

2014年10月11日に本学で開催された「第64回日本薬学会近畿支部総会・大会」において、本学の学生11名がポスター賞を受賞しました。

受賞者：微生物・感染制御学分野 4年次生 小畑 志保

演題：IV型線毛に着目した緑膿菌によるCaco-2細胞モノレイヤ透過の解析

演者：小畑 志保、石山 彩奈、東川 祥子、四方 基嗣
林 直樹、後藤 直正

受賞者：病態生化学分野 6年次生 別府 梨沙

演題：ダウン症モデルマウス胎児脳における抑制性ニューロン新生異常

演者：別府 梨沙¹、石原 慶一¹、谷口 麻実¹、金井 志帆¹
左合 治彦²、山川 和弘³、秋葉 聡¹

(¹京都薬科大学, ²国立成育医療研究センター)
(³理化学研究所 脳科学総合研究センター)

受賞者：公衆衛生学分野 4年次生 阿部 真帆

演題：2011年12月から2012年5月の日本海沿岸地域における越境大気汚染の解析

演者：阿部 真帆¹、クゥリバリ スレイマン¹、松井 元希¹
貴志 茜衣¹、坂本 みずほ¹、小野 遼¹、南 嘉輝¹
山田 真裕¹、長谷井 友尋¹、世良 暢之²、大呂 忠司³
木戸 瑞佳⁴、船坂 邦弘⁵、浅川 大地⁵、渡辺 徹志¹

(¹京都薬科大学, ²福岡県保健環境研究所, ³鳥取県衛生環境研究所)
(⁴富山県環境科学センター, ⁵大阪市立環境科学研究所)

受賞者：薬理学分野 4年次生 佐藤 綾

演題：炎症性腸疾患モデルマウスの脾臓由来CD4陽性T細胞におけるアルカリpH活性化K⁺チャンネルTASK-2の役割

演者：佐藤 綾、中倉 佐和、石井 瑞紀、丹羽 里実
藤井 正徳、大矢 進

受賞者：薬理学分野 4年次生 村岸 沙也加

演題：炎症性腸疾患モデルマウスTリンパ球におけるCa²⁺活性化K⁺チャンネルK_{Ca}3.1活性化因子nucleoside diphosphate kinase-B (NDPK-B) の役割

演者：村岸 沙也加¹、村瀬 実希¹、松井 未来²
仁熊 宏樹¹、柴岡 里奈¹、藤井 正徳¹
奈邊 健³、今泉 祐治²、大矢 進¹

(¹京都薬科大学, ²名古屋市立大学 大学院薬学研究科)
(³摂南大学 薬学部)

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 梅山 遥

演題：K⁺イオノフォアNigericin はカボジ肉腫関連ヘルペスウイルス感染リンパ腫細胞のWntシグナルを抑制しアポトーシスを誘導する

演者：梅山 遥、重見 善平、渡部 匡史
賀川 裕貴、藤室 雅弘

受賞者：病態生理学分野 3年次生 若林 亮介

演題：Wnt/ β -catenin経路阻害化合物のスクリーニング系の構築

演者：若林 亮介¹、高田 和幸¹、中村 誠宏²
大矢 博己¹、菅 倫子¹、川幡 尚平¹、福田 浩紀¹
赤路 健一³、松田 久司²、北村 佳久¹、芦原 英司¹
(京都薬科大学 ¹病態生理学, ²生薬学, ³薬品化学)

受賞者：薬品物理化学分野 3年次生 初山 京子

演題：微弱電流処理による*in vitro*トランスフェクション活性への影響

演者：初山 京子、西本 明功、扇田 隆司、濱 進
小暮 健太郎

受賞者：臨床薬学分野 5年次生 渡邊 愛梨

演題：光誘導一活性酸素種によるコラーゲン分子のクロスリンク発生とコラーゲン線維化抑制物質の探索

演者：香川 美紀、安井 裕之

受賞者：代謝分析学分野 6年次生 香川 美紀

演題：5-FU 耐性ヒト乳癌細胞株の樹立とそのメカニズムの解明

演者：渡邊 愛梨、峯垣 哲也、辻 栞、山本 知志
戀木 沙耶、道家 雄太郎、山根 千尋
辻本 雅之、西口 工司

受賞者：薬品製造学分野 4年次生 松本 卓也

演題：チオフェン導入アセトゲニン誘導体の作用機序解明を指向した蛍光標識化プローブ分子の合成研究

演者：松本 卓也¹、小島 直人¹、須賀 友規²
田中 徹明²、岩崎 宏樹¹、山下 正行¹

(¹京都薬科大学, ²国立成育医療研究センター)

■ 日本腎臓病薬物療学会学術集会・総会 2014において優秀演題賞受賞

2014年10月12日～10月13日に大阪国際交流センターで開催された「第8回日本腎臓病薬物療学会学術集会・総会2014」において、臨床薬学分野の5年次生 小川佳織さんが優秀演題賞を受賞しました。

演題：腎尿細管モデルHK-2細胞におけるインドキシル硫酸の動態に及ぼす尿酸の影響

演者：小川 佳織、辻本 雅之
吉田 拓弥、神原 健吾
鳥居 奈央、峯垣 哲也
西口 工司



■ 平成26年度「科研費」審査委員の表彰

細胞生物学分野の藤室雅弘教授が、独立行政法人日本学術振興会から平成26年度「科研費」審査委員の表彰を受けました。

日本学術振興会では、学術研究の振興を目的とした科学研究費助成事業（科研費）を行っています。科研費が公平・公正に運営されていくにあたって審査委員の役割は大変重要であり、今回の表彰は、平成26年度科研費の審査における藤室教授の有意義な審査意見が評価されたものです。



■ 第67回日本細菌学会関西支部総会に おいて若手研究者奨励賞受賞

2014年11月22日（土）に兵庫医科大学で開催された「第67回日本細菌学会関西支部総会」において、微生物・感染制御学分野の林直樹助教が若手研究者奨励賞を受賞しました。

演題：III型エフェクターExoSの上皮細胞内注入における緑膿菌のIV型線毛*pilA*および*pilT*遺伝子の必要性

演者：林 直樹、後藤 直正

■ 第36回生体膜と薬物の相互作用 シンポジウムにおいて優秀発表賞受賞

2014年11月20日～21日に徳島大学で開催された「第36回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム」において、薬品物理化学分野の博士後期課程3年次生 板倉祥子さんが優秀発表賞を受賞しました。

演題：膜不安定化ペプチドを利用した新規DDSの開発

演者：板倉 祥子、濱 進、扇田 隆司、小暮 健太郎

NEWS お知らせ

人事

採用

病態薬科学系臨床腫瘍学分野

准教授 中田 晋
(2015. 01. 01付)

事務局学生課

契約事務職員（事務員） 清水 芳美
(2014. 12. 01付)

退職

事務局学生課

契約事務職員（事務員） 長谷川 祥子
(2014. 12. 31付)

■ 2014年度動物慰霊祭

10月28日（火）に、本校地の動物慰霊碑前において、2014年度動物慰霊祭を執り行いました。

当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

武田理事長、乾学長、山本バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2014年9月～2014年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

児嶋 昭彦 (昭24)	塩川 和子 (昭36)	高越 清昭 (昭44)	福岡 太英子 (昭52)
宇本 芳樹 (昭28)	福田 芙美子 (昭37)	佐久嶋 明世 (昭44)	三上 正 (昭52)
滝野 哲 (昭29)	本岡 美智子 (昭37)	蘆田 康子 (昭45)	森 一二美 (昭52)
野口 昭 (昭29)	林 盈子 (昭40)	稲垣 美幸 (昭45)	吉田 俊郎 (昭53)
永浜 淳子 (昭31)	遠藤 妙子 (昭41)	武田 忍 (昭45)	小西 彰子 (昭54)
中道 律子 (昭31)	貴宝院 善博 (昭41)	内藤 栄美 (昭45)	石田 誠 (昭55)
湯浅 総司 (昭32)	森 道子 (昭41)	米満 弘夫 (昭47)	平野 隆 (昭55)
森本 幸子 (昭33)	谷口 睦子 (昭42)	井岡 万純 (昭49)	高美 美鶴 (昭56)
藤下 淑子 (昭34)	山口 博行 (昭42)	岡本 節子 (昭49)	尾崎 朋久 (平11)
渋谷 禎彦 (昭35)	久米 和子 (昭43)	川崎 真子 (昭49)	安宅 弘充 (平13)
三森 寿一 (昭35)	吉田 高子 (昭43)	青井 いつみ (昭50)	生越 由美 (平26)
恩塚 有子 (昭36)	碓井 弥生 (昭44)	扇谷 年昭 (昭50)	

＜ 京薬四〇会卒業50周年記念募金（昭和40年卒業生）（五十音順）＞

太田 俊作	小林 猛	豊川 郁子	松井 清
岡本 喜代子	小林 充子	中野 明子	松岡 峯夫
岡本 昇	小森 忠昭	中村 温子	松田 勲
恩地 正	塩崎 倫子	野口 隆志	向林 素鶴子
掛見 和郎	杉下 友利乃	野口 紘子	森本 美恵子
加藤 昌幸	谷 賢子	狭間 紀代	柳本 正信
加納 亜子	谷村 雅子	福井 一夫	
河野 浩子	栃本 文男	本庄 美代子	

＜ 法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

乾 賢一 (学 長)	齊藤 洋平 (助 教)	村山 猪一郎 (監 事)
大原 松雄 (理 事)	高美 時郎 (評議員)	森 新 (評議員)
久米 光 (評議員)	内藤 行喜 (助 手)	

(2014年11月30日現在)

■ KPUnews編集委員会からのお知らせ

新年を迎え、またNo.180というキリの良さもありましたので、今回よりKPUnewsの誌面デザインを一新いたしました。今後ともより良い誌面を目指し改善していきたいと思っております。ご意見・ご感想等ございましたら、編集委員会までお寄せください。

